

PN9108

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書はATENジャパン株式会社において、PN9108 取り扱いの便宜を図るため、製品同梱 英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く変更されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、製品同梱の英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術サポート部

TEL :03-5323-7178

MAIL :support@atenjapan.jp

2008年10月9日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載された全ての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元である ATEN International により、予告無く変更されることがあります。製造元 ATEN International は、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピュータのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティシステム、放送システム、医療システム等における可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニタ、コンピュータ等、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能を全て発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失等の損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応となりますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故等によるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 納品日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズム等の予期しない災害によって故障または破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証のお申し込み手順】

弊社の製品保証規定に従い保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

- (1) **不具合の確認**……製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口へ連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。
- (2) **本規定に基づく製品保証のご依頼**……(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『製品納品日が証明できる書類』を用意して、製品を購入された販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。
- (3) **製品の発送**……不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品／液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～3 年	無償修理
	3 年以上	有償修理※2
②液晶ディスプレイ搭載製品	製品納品日～1 ヶ月	初期不良、新品交換※1
	～2 年	無償修理
	2 年以上	有償修理※2

※1…製品納品日から30 日以内に弊社または販売店に申告を頂いた不具合を初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途お問い合わせください。

※ケーブル類、電源アダプタ、その他レールキット等のアクセサリ類はDOA・初期不良の際の新品交換のみ、承ります。

※EOL(生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。

※本保証期間は2007年9月1日以降にご購入された場合に適用されます。それ以前に購入された製品については、1年間の保証となります。

【補足】

- ・ 本規定はATEN/ALTUSEN ブランド製品に限り適用します。
- ・ ケーブル類・電源アダプタは初期不良対応に準じます。
- ・ 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。
- ・ 製品保証を受けるにあたり、製品の納品日が証明できない場合は製品のシリアルナンバーから判別した製造日を起算日とします。ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、全て有償修理とさせていただきます。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業推進部 TEL:03-5323-7170 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術サポート部 TEL :03-5323-7178 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

FCC.....	9
RoHS	9
SJ/T 11364-2006	9
安全にお使い頂くために	10
一般的な注意事項	10
ラックマウントに関する注意事項.....	12
電源コードに関する注意事項.....	13
同梱品	14
本マニュアルについて.....	15
マニュアル表記について	16
第1章 はじめに.....	17
製品概要	17
特長.....	19
必要システム構成.....	20
製品各部名称	21
フロントパネル	21
リアパネル.....	23
第2章 ハードウェアセットアップ	24
セットアップの前に.....	24
デバイスの卓上設置とラックマウント	24
卓上設置.....	24
ラックマウント	25
単体使用	27
デイジーチェーン接続	29
第3章 ブラウザ操作	30
ログイン	30
PN9108 メイン画面	32
Device Selector.....	33
Device Control	33
Power Status 画面	34
上部パネル	34
下部パネル.....	36
第4章 管理メニュー	37

作業環境の設定	37
General.....	37
Network.....	39
Date / Time	42
Firmware.....	43
Logout.....	43
電源管理機能の設定	44
Configuration.....	44
Schedule	50
User Management.....	51
Monitor	52
Log	53
第 5 章 セーフシャットダウン/リブート	55
概要	55
BIOS における電源管理設定	55
自動セットアップ	56
インストール.....	57
アンインストール.....	58
手動セットアップ	59
Windows 2000/XP/Server 2003.....	59
Windows NT.....	61
第 6 章 アウトオブバンド操作	62
Out of Band Configuration	62
コンピュータ接続.....	63
モデム接続	64
各ボタンの機能.....	67
ダイレクトターミナル接続(ハイパーターミナル)	68
ハイパーターミナル	68
非ダイレクトターミナル接続(ハイパーターミナル)	72
接続方法.....	72
最終確認.....	73
ログイン	74
ダイレクトダイヤルイン接続(PPP)	75
接続設定.....	75
最終確認.....	78
ログイン	79

非ダイレクトダイヤルイン接続 (PPP)	80
接続方法	80
最終確認	81
ログイン	81
ダイヤルアウト接続	82
接続設定	82
ログイン	83
Telnet	84
ターミナルによるアクセス	84
ブラウザによるアクセス	84
第7章 ファームウェアアップグレード	85
アップグレード作業をはじめる前に	85
アップグレードの方法	86
付録	87
IP アドレスの設定	87
トラブルシューティング	90
信頼された証明書	94
概要	94
証明書のインストール	95
証明書のインストール完了	96
アドミニストレーターでログインできない場合	97
製品仕様	98
ヌルモデムケーブルのピン配置	100
バッテリー交換時の注意事項	100

FCC

本製品は FCC Class A 装置です。一般家庭でご使用になると、電波干渉を起こすことがあります。その際には、ユーザーご自身で適切な処置を行ってください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計され、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護を提供する為のものです。

この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。

また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす可能性もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、その障害を取り除いてください。

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

SJ/T 11364-2006

The following contains information that relates to China.

部件名称	有毒有害物质或元素					
	铅	汞	镉	六价铬	多溴联苯	多溴二苯醚
电器部件	●	○	○	○	○	○
机构部件	○	○	○	○	○	○

○: 表示该有毒有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在SJ/T 11363-2006规定的限量要求之下。

●: 表示符合欧盟的豁免条款, 但该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。

×: 表示该有毒有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出SJ/T 11363-2006的限量要求。



安全にお使い頂くために

一般的な注意事項

- ◆ 製品に同梱されるドキュメントは全てお読みください。またドキュメント類は全て保存してください。
- ◆ 製品に関する注意・説明に従って取り扱ってください。
- ◆ 落下による事故・製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブル等)を避けるようにしてください。
- ◆ 製品が水に濡れるおそれのあるような場所で使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、またはその熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 製品のケースには必要に応じて通気口が設けられています。通気口のある製品は、安定した運用を行うため、また製品の過熱を防ぐために、開口部を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。開口部が塞がれ、適切な通気が確保できずに製品が過熱する恐れがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ 電源プラグを電源コンセントから抜く場合は、乾いた雑巾でプラグ周りのホコリを掃除してください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。
- ◆ 製品はラベルに記載されたタイプの電源に接続して運用してください。電源タイプについて不明な場合は、購入された販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者に問い合わせ適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国/地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適合していることを確認してください。
- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ システムケーブルや電源ケーブルは丁寧に取り扱いってください。これらのケーブル類の上には何も置かないようにしてください。

- ◆ ホットプラグ対応パワーサプライの取り付け、または取り外しする場合は、以下の注意事項に従ってください。
 - 電源ケーブルを接続する前に、パワーサプライのセットアップを行ってください。
 - パワーサプライを取り外す前に電源ケーブルを抜いてください。
 - お使いのシステムが複数のパワーサプライをお使いである場合、パワーサプライからすべての電源ケーブルを抜いてお使いのシステムから切り離してください。
- ◆ 危険な電圧ポイントへの接触やショートによって、発火したり感電したりするおそれがありますので、キャビネットのスロットには何も挿入しないでください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、何かありましたら技術サポートまでご相談ください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、コンセントをはずして技術サポートに修理を依頼してください。
 - 電源コードが破損した。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水にぬれた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常に動作しない。
- ◆ 技術サポートの修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。

ラックマウントに関する注意事項

- ◆ ラックでの作業を始める前に、スタビライザーがラックに固定され床に接していること、また、ラック全体が安定した場所に置かれていることを確認してください。作業前にフロントとサイドのスタビライザーをシングルラックに取り付けるか、多機能ラックをフロントスタビライザーに取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ デバイスを拡張する前にラックが水平で安定していることを確認してください。
- ◆ デバイスレールのリリース用ラッチを押してラックからデバイスの出し入れをする際にはスライドレールに指を挟まないようご注意ください。
- ◆ デバイスがラックに挿入されたら、注意してレールをロックする位置までスライドしてください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保してください。
- ◆ ラックに設置されているデバイスが動作している際に、デバイスを踏んだりデバイスによじ登ったりしないでください。

電源コードに関する注意事項

製品を使用する際には、必ず製品付属のケーブルを使用してください。異なるケーブルを使用した場合はサポート対象外となります。

同梱品

PN9108 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

◆ PN9108 Power Over the Net™	×1
◆ AC 電源ケーブル	×1
◆ IEC60320 NEMA 変換ケーブル	×8
◆ セーフシャットダウンケーブル	×8
◆ PON ケーブル(DB9 メス-DB9 オス)	×1
◆ ラックマウントキット	×1
◆ フットパッドセット(4 個入)	×1
◆ ソフトウェア CD	×1
◆ 英語版ユーザーマニュアル	×1
◆ 多言語版クイックスタートガイド	×1

上記のアイテムがそろっているかご確認ください。万が一、欠品または破損品があった場合はお買い上げになった販売店までご連絡ください。

本ユーザーマニュアルをよくお読みいただき、正しい使用方法により、本製品および接続する機器を安全にお使いください。

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、PN9108 に関する情報や使用法について説明しており、取り付け・セットアップ方法、操作方法のすべてを提供します。

マニュアル構成は下記のようになっています。

- 第1章** はじめに:PN9108 を紹介します。特長および機能の概要および製品各部名称について説明しています。
- 第2章** ハードウェアセットアップ:PN9108 の基本的なハードウェアセットアップの手順を説明しています。
- 第3章** ブラウザ操作:お使いの PN9108 を Web ブラウザから操作する方法について説明します。
- 第4章** 管理方法:PN9108 での作業環境を設定する管理メニューについて説明します。
- 第5章** セーフシャットダウン/リブート:PN9108 を利用した、ファイルシステムに影響を及ぼさない、安全なシステムシャットダウンおよびリブートの方法について説明します。
- 第6章** アウトオブバンド操作:PN9108 がセットアップされているネットワークがダウンした時、または何らかの理由により通常ブラウザからアクセスできなくなった時の代替アクセス方法について説明します。
- 第7章** ファームウェアアップグレード:PN9108 に最新版のファームウェアを適用する方法について説明します。
- 付録** 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明しています。

マニュアル表記について

[]

入力するキーを示します。例えば[Enter]はエンターキーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl] + [Alt]のように表記してあります。またホットキー操作のようにキーを連続して押す場合は、[Ctrl] , [Alt] , [Shift]のようにコンマ(,)を挟んで表記してあります。

1.

番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆

◆印は情報を示しますが、作業の手順を意味するものではありません。

→

矢印は操作の手順を示します。例えばStart → Runはスタートメニューを開き、Runを選択することを意味します。

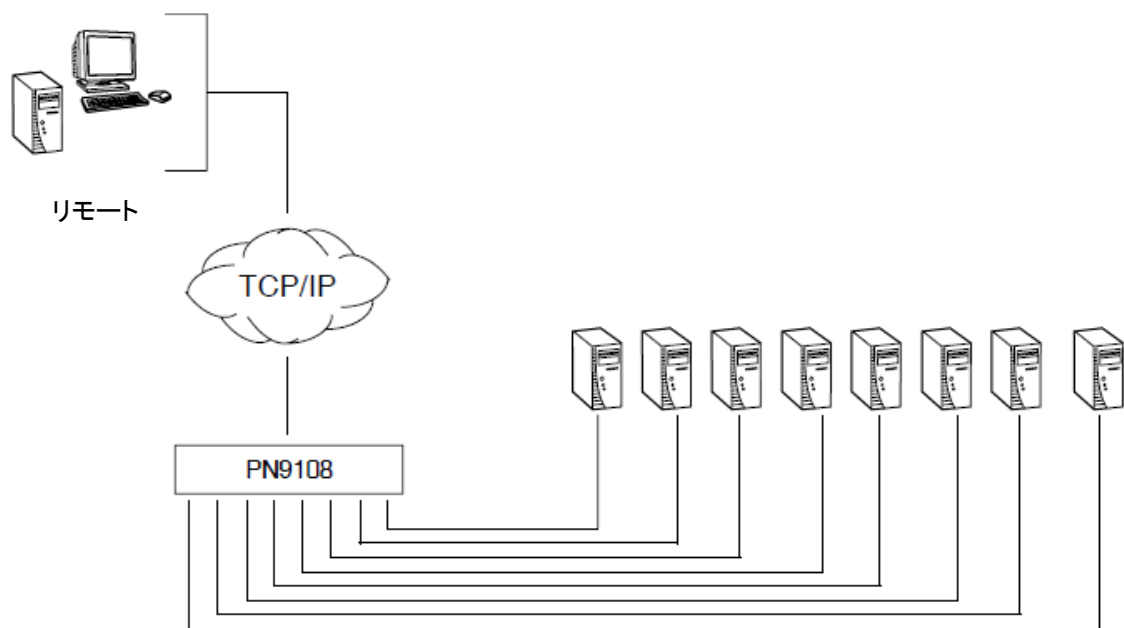


重要な情報を示しています。

第1章 はじめに

製品概要

Power Over the Net™ PN9108 は TCP/IP ネットワークを経由して、遠隔地から最大 8 台のデバイスの電源管理を行うデバイスです。管理者はインターネットに接続されたコンピュータであればどこからでも一街角でも地球の裏側からでも PN9108 に接続されたコンピュータの電源管理（電源 ON、OFF、再起動）を行うことができます。



各々の電源出力ポートは個別に管理可能で、ユーザーはそれぞれのデバイスの電源の OFF、ON のスケジュールを設定することができます。PN9108 はデジーチェーン接続に対応しており、15 台の PN9108 を追加して接続することで最大 128 台のデバイスの電源管理が可能となります。セットアップは各ケーブルを適切なポートに接続するだけですし、直感的に分かりやすい GUI ベースの操作メニューをご用意しておりますので簡単にお使いいただけます。

PN9108 はネットワーク経由でファームウェアのアップグレードが可能です。弊社 WEB サイトより最新バージョンのファームウェアパッケージを入手し、ネットワークにアクセス可能な端末からその

ファイルを製品に適用するだけで最新の機能をご利用いただけます。

先進の機能と利便性を備えた PN9108 は、複数のデバイスのリモート電源管理において最も便利で信頼性があり、費用対効果が高いソリューションです。

特長

- ◆ 10/100Mbps LAN ケーブルを使用し TCP/IP ネットワーク経由で 8 台のコンピュータ/デバイスの電源管理(電源 ON/OFF/再起動)が可能
- ◆ PN9108 の RS-232C ポートとコンピュータの RS-232 ポートを接続することによって、ローカルからの電源管理(電源 ON/OFF/再起動)が可能
- ◆ 最大 15 台の PN9108 を追加してデジーチェーン接続することにより、128 台のデバイスの電源管理が可能
- ◆ フロントパネルのプッシュボタンによりローカル、リモートのアクセスを手動で切替
- ◆ 各ポートの個別制御—ユーザーは各ポートに対する電源 ON /OFF の遅延時間を設定することで、適切な順序でデバイスを起動/シャットダウンすることが可能
- ◆ ブラウザインターフェースでセットアップや操作が簡単
- ◆ PN9108 の設定・管理の手段として、ブラウザ、Telnet、コンソールターミナルといった 3 つの方法を提供
- ◆ セーフシャットダウン/リブートに対応 (Windows のみ*)
- ◆ 各 AC ポートへの過電流保護/回復機能—リモートユーザーはブラウザの GUI インターフェースによって現在のステータスを監視することが可能
- ◆ PN9108 本体の電源とデバイスへの電源は独立—過電流状態によってデバイスのブレーカーが作動しても、電源管理ステータスメニューへのアクセスが可能
- ◆ 電流測定機能—リモートユーザーはブラウザ GUI で電流負荷(アンペア)確認が可能
- ◆ 電源オン/オフのスケジュール管理機能—単純な時間指定起動/シャットダウンから、日次、週次単位に至るまで、ユーザー指定時間による起動/シャットダウン/再起動の設定が可能
- ◆ ポートをグループ分けすることにより、グループ単位での電源操作が可能
- ◆ ターミナル接続またはダイヤルアップ接続によるアウトオブバンド操作
- ◆ 2 レベルのユーザー権限—アドミニストレーターおよびユーザー
- ◆ フロント/リアモジュールの分離設計

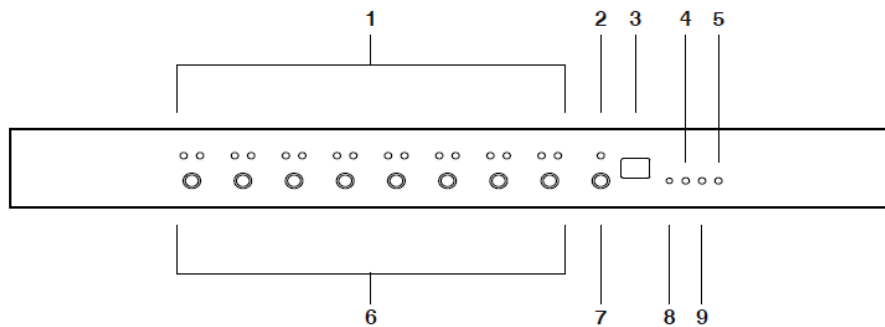
* セーフシャットダウン/リブート機能は、電源モニタユーティリティがインストールされている環境でご利用いただくことができます。(p.56「自動セットアップ」参照)

必要システム構成

- ◆ PN9108 に接続するブラウザは、128 ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。
- ◆ PN9108 に接続されたコンピュータをコールドスタートする場合、そのコンピュータの BIOS がコールドスタートに対応していなければなりません。
- ◆ 安全にシャットダウンしていただくために、PN9108 に接続されているコンピュータに以下の環境が整っていることを確認してください。
 - コンピュータの OS が Windows であること (Windows98 以降)
 - コンピュータの BIOS がセーフシャットダウンに対応していること
 - セーフシャットダウンケーブルを接続する COM ポートがコンピュータに搭載されていること

製品各部名称

フロントパネル

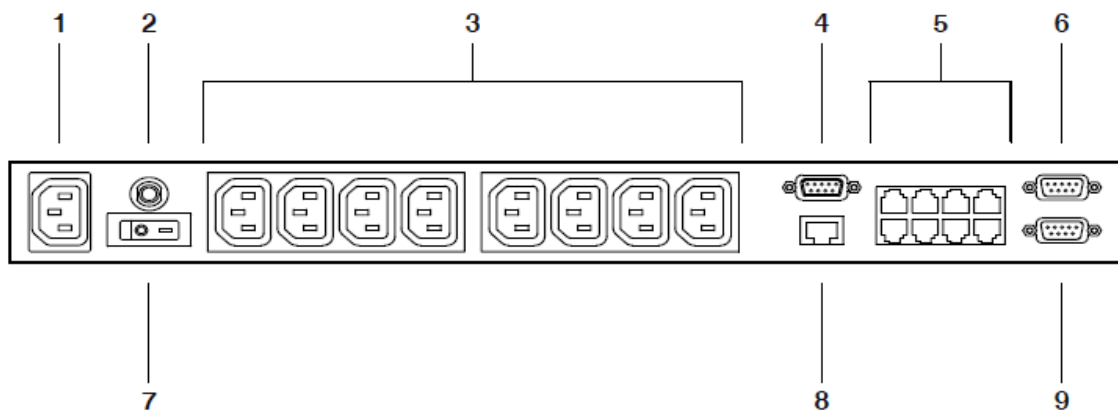


No.	名称	説明
1	ポートLED	<p>各ポートに2個1組で内蔵されており、対応するAC電源ポートのステータスを表します。左側のLEDはリモートアクセスLED (REMOTE)、右側のLEDは電源LED (POWER)です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ リモートアクセスLEDが緑色に点灯している場合、そのポートへのリモート管理が可能であることを表します。 ◆ 電源LEDがオレンジ色に点灯している場合、そのポートが通電されていることを表しています。また、以下の状態の場合に、このLEDは点滅します。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 「Modem Ring Resume」が有効になっている場合 (p.45 参照)、ポートに接続されたコンピュータに電源が入っていない場合、電源出力ポートには電源が供給されています。このとき、電源LEDはOFF/ONの点滅を8秒間繰り返した後、OFF/ONの点滅を8秒間繰り返します。 ➤ 電源の状態変化を待機している間、LEDは変更が行われるまで点滅し続けます。 ◆ 両方のLEDが点滅している場合、過電流状態になっているか、リレーに失敗したかを表します。詳細についてはp.34の表における「電球マークが点灯」の項目をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
2	電流 LED	このランプが点灯しているとき、ステーション ID LED にはステーション ID ではなく、電流値(アンペア)が表示されていることを表します。
3	ステーション ID LED	<ul style="list-style-type: none"> ◆ PN9108 のステーション ID は通常ここに表示されます。単体使用(p.27 参照)またはデージーチェーン(p.29 参照)の構成における最初の PN9108 のステーション ID は 01 です。 ◆ 電流表示スイッチが ON の時(項目7参照)は、この部分にはステーション ID ではなく、電流値が表示されます
4	10/100 Mbps データ LED	<ul style="list-style-type: none"> ◆ データ転送速度が 10Mbps のとき、この LED ランプはオレンジ色に点灯します。 ◆ データ転送速度が 100Mbps のとき、この LED ランプは緑色に点灯します。
5	電源 LED	PN9108 の電源が入っており、操作可能な状態の場合に点灯します。
6	電源操作ボタン	<p>A～H の各ボタンで対応する電源出力ポートを以下のように操作します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを短く押す(3 秒以内)と、ポートへのリモートアクセス有効/無効(ローカルモード)を切り替えて設定します。リモートアクセスが無効である場合、ポートはリモート接続で管理することができません。 ◆ ローカルモードで、このボタンを 3 秒以上長押しすると、そのポートに接続されたデバイスの電源を ON または OFF に切り替えます。
7	電流表示スイッチ	ステーション ID LED でのステーション ID 表示と電流値表示を切り替えます。
8	リセットスイッチ	このスイッチを 3 秒以上長押しすると、PN9108 の設定は工場出荷時のデフォルト値に戻ります。このスイッチはピンホール型になっておりますので、クリップやペンなど先が細く尖ったものを使って押ししてください。
9	リンク LED	緑色に点灯している場合は、PN9108 の RJ-45 イーサネットポート経由での接続が確立したことを表します。また、このランプが点灯している場合、データ転送中であることを表します。

リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	AC 電源に接続されている電源ケーブルをここに挿します。
2	ブレーカー	ブレーカーが作動した際に復旧させる場合は、このボタンを押してください。
3	電源出力ポート	IEC 60320 C14 規格のコネクタです。製品同梱の IEC60320 NEMA 変換ケーブルを使用して、コンピュータと接続します。
4	RS-232 ポート	UPS、モデム、PC ターミナルとの接続に使用します。
5	セーフシャットダウンポート	コンピュータに接続したセーフシャットダウンケーブルをこのポートに挿すことによって、Windows 98SE、ME、NT、2000、XP、2003 Server でセーフシャットダウン/リブートを行うことができます。
6	PON (Power Over the Net™) 出力ポート	PN9108 をダイジーチェーン接続する際の Chain Out ポートです。ダイジーチェーン接続の詳細に関しては p.29 をご参照ください。
7	電源スイッチ	PN9108 の電源の ON/OFF を行うロッカースイッチです。
8	RJ-45 ポート	PN9108 をインターネットに接続するカテゴリ 5 ケーブルをここに挿します。
9	PON 入力ポート	PN9108 をダイジーチェーン接続してお使いの場合、親機の Chain Out ポートに接続された PON ケーブルをここに挿します。

第2章 ハードウェアセットアップ

セットアップの前に

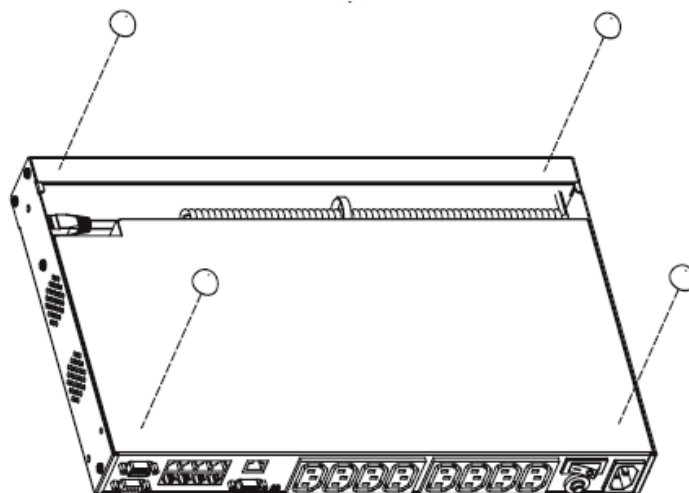


1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 今から接続する装置すべての電源が OFF になっていることを確認してください。キーボード起動機能がついている場合は、コンピュータの電源ケーブルも抜いてください。

デバイスの卓上設置とラックマウント

卓上設置

PN9108 は製品本体と接続されるケーブルの重量に耐えられ、安定した水平な場所であれば、どんな場所でも設置することが可能です。PN9108 本体を置く際には、同梱ゴム製フットパッドの裏面のはくり紙をはがし、下記の図のように PN9108 底面の四隅に貼り付けてください。

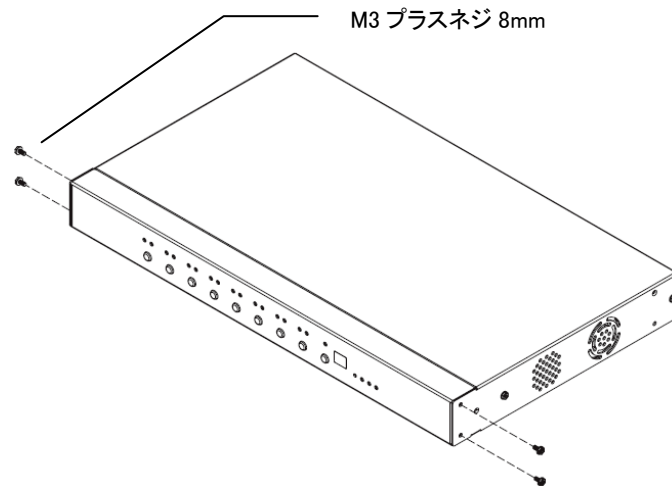


注意: 機器への通気を確保するために、製品の両側面は5.1cm以上、また、背面は電源コードやケーブルの配線用スペースも考慮に入れて12.7cm以上の空間をもうけるようにしてください。

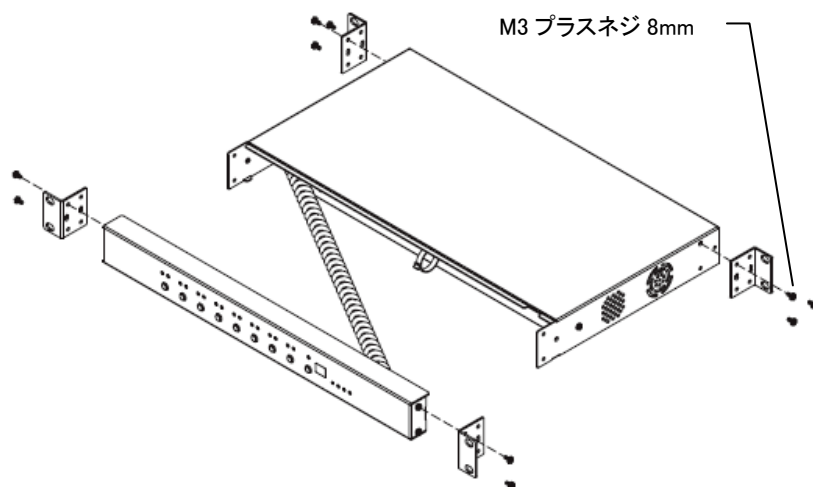
ラックマウント

PN9108 は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。ラックマウントは以下の手順で行ってください。

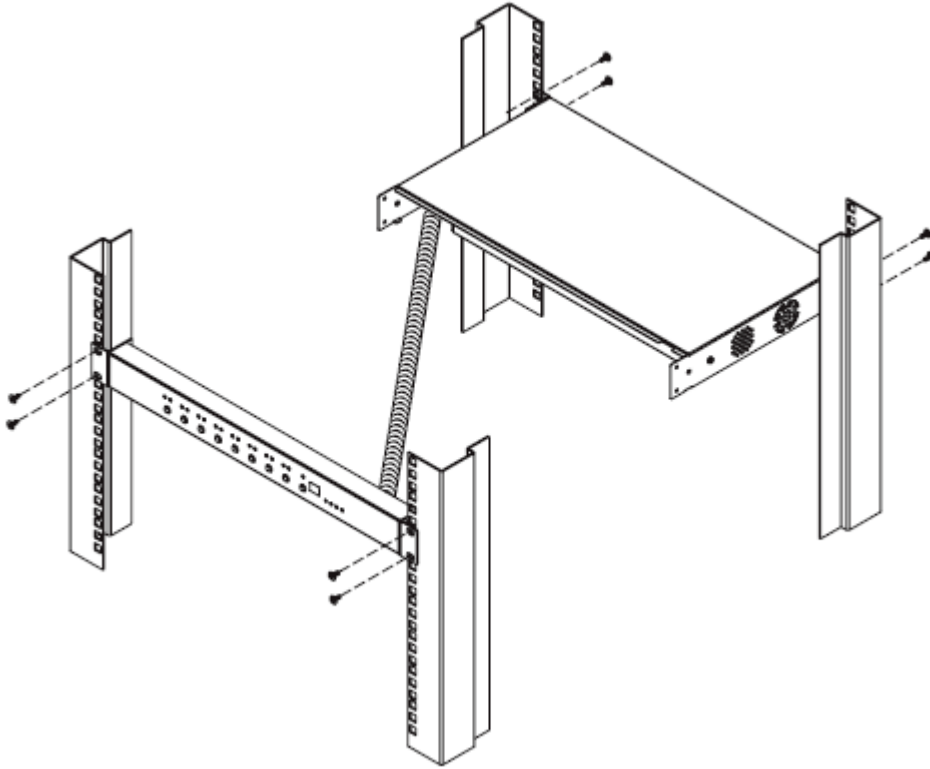
1. 下図を参考に、ドライバーを使って製品側面のフロント側に取り付けられているネジ(4 つ)を外し、製品本体とフロントパネルを分離してください。



2. 手順 1 で取り外したネジおよび製品に同梱されているラックマウントキット付属のネジを使って、ラックマウント用金具を下図のように製品に取り付けてください。



3. 製品に取り付けたマウント用金具の穴をラックの適当な位置に固定してください。
4. マウント用金具をネジ止めしラックに取り付けます。



注意: ケージナットは製品には同梱されていませんので、お手数ですが別途用意してください。

単体使用

PN9108 を単体でご利用になる場合は、他のユニットをデ이지チェーン接続する必要はありません。セットアップする場合は下図(図内における番号は手順の番号に対応)を参考にしながら、以下の手順で作業を行ってください。

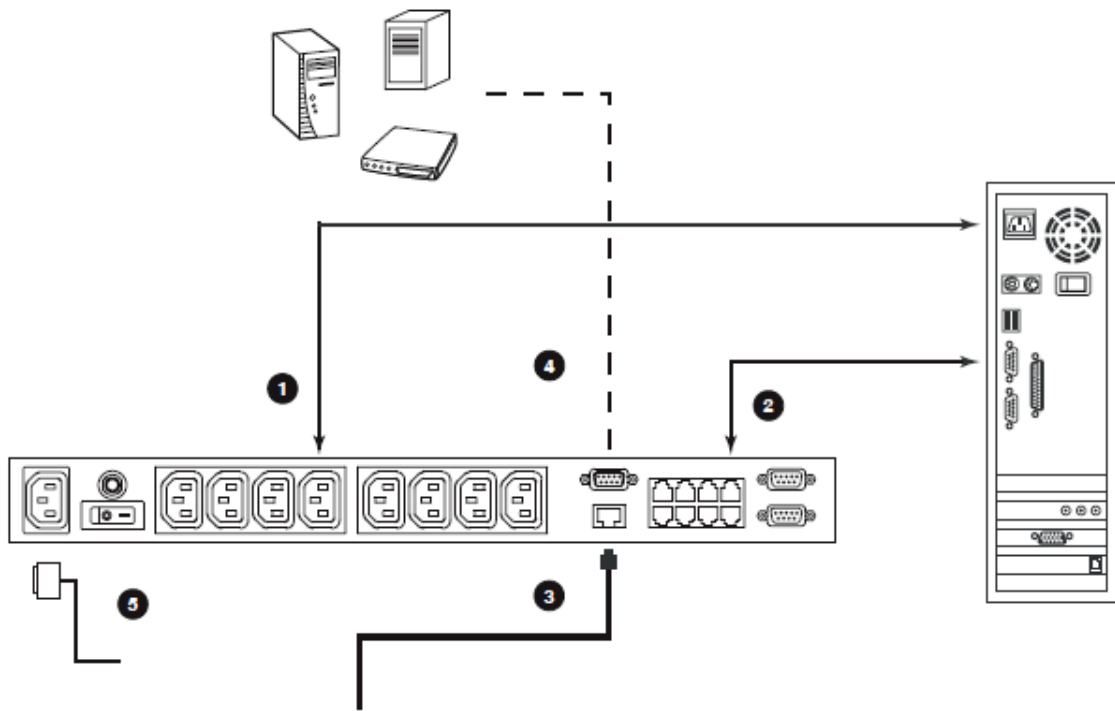
1. 製品同梱の IEC60320 NEMA 変換ケーブルを使って、PN9108 の電源出力ポートとデバイスの AC 電源ケーブルを接続してください。
2. 接続するコンピュータの OS が Windows 98SE、ME、NT、2000、XP または Windows Server 2003 である場合、セーフシャットダウンを行うことができます。
セーフシャットダウン機能(オプションで利用可能)をご利用の場合、セーフシャットダウンケーブルをお使いのコンピュータのシリアルポートと PN9108 のセーフシャットダウンポートに接続してください。

注意: コンピュータを接続する場合、そのコンピュータの電源ケーブルおよびシリアルケーブルを、同一番号の電源出力ポートとセーフシャットダウンポートにそれぞれ接続するようにしてください。

3. PN9108 の RJ-45 ポートに LAN ケーブルを接続してください。
4. UPS、または、アウトオブバンド機能用のモデムやコンピュータをお使いの場合は、それらのデバイスのシリアルポートと PN9108 の RS-232 ポートをシリアルケーブルで接続してください。
5. 製品同梱の AC 電源コードを PN9108 の電源ソケットに接続し、AC 電源につないでください。
電源コードの安全な使用方法については p.13 をご参照ください。

注意: PN9108 製品本体の電源を複数口のある電源タップに接続した場合、十分な電流が得られない可能性がありますので、製品本体に接続された電源コードは電源タップに接続しないようにしてください。

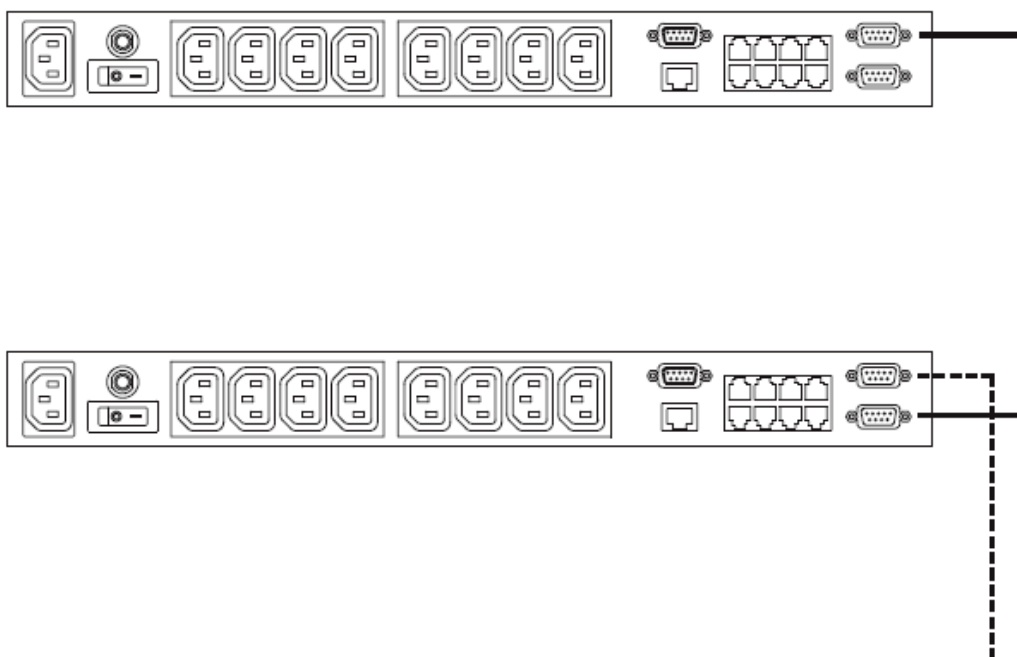
ケーブルの接続が完了したら、PN9108 と PN9108 に接続されたデバイスに電源を入れてください。



ダイジーチェーン接続

電源管理の対象となるデバイスの台数が PN9108 のポート数を超える場合でも、最大で 15 台の PN9108 を追加してダイジーチェーン接続することで対応が可能です。この場合、最大で 128 台のデバイスの電源管理を行うことができます。ダイジーチェーン接続を行う場合は、以下の手順でセットアップしてください。

1. 製品同梱のダイジーチェーンケーブル (DB-9 メス-DB-9 オス) を使って、親機として使用する PN9108 の PON OUT ポートと、子機として使用する PN9108 の PON IN ポートを接続してください。



2. ケーブルの接続が完了したら、最上位の PN9108 から順に電源を入れています。電源を入れた PN9108 がステーション ID を認識し、ステーション ID を LED 表示したら、次のステーションに電源を入れてください。
1 台目の機器のステーション ID には **01**、2 台目には **02** というようにステーション ID が割り振られます。
3. 全てのステーションに電源が入ったら、PN9108 に接続されているデバイスに電源を入れてください。

第3章 ブラウザ操作

ログイン

ハードウェアのセットアップが完了すると、PN9108 は Web ブラウザから接続することができます。

注意: PN9108 にアクセスする Web ブラウザは 128 ビット SSL 暗号化通信に対応している必要があります。

1. Web ブラウザの URL バーに PN9108 の IP アドレスを入力し、アクセスしてください。

注意:

1. IP アドレスは PN9108 の管理者までお問い合わせください。
2. アドミニストレーターとして PN9108 に最初にログインする場合、PN9108 に IP アドレスを設定する必要があります。IP アドレスの設定する手段としていくつかの方法をご用意しておりますので、詳細は p.87 をご参照ください。

2. 「セキュリティの警告」ダイアログが表示されますが、この証明書は安全なものですので、受け入れてください。(p.94 参照) 証明書を受け入れると以下のようなログイン画面が表示されます。



The image shows a login form titled "PN9108 - Login". It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the input fields are two buttons: "Login" and "Reset".

3. PN9108 の管理者に設定された正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「**Login**」ボタンをクリックして操作を続けてください。
-

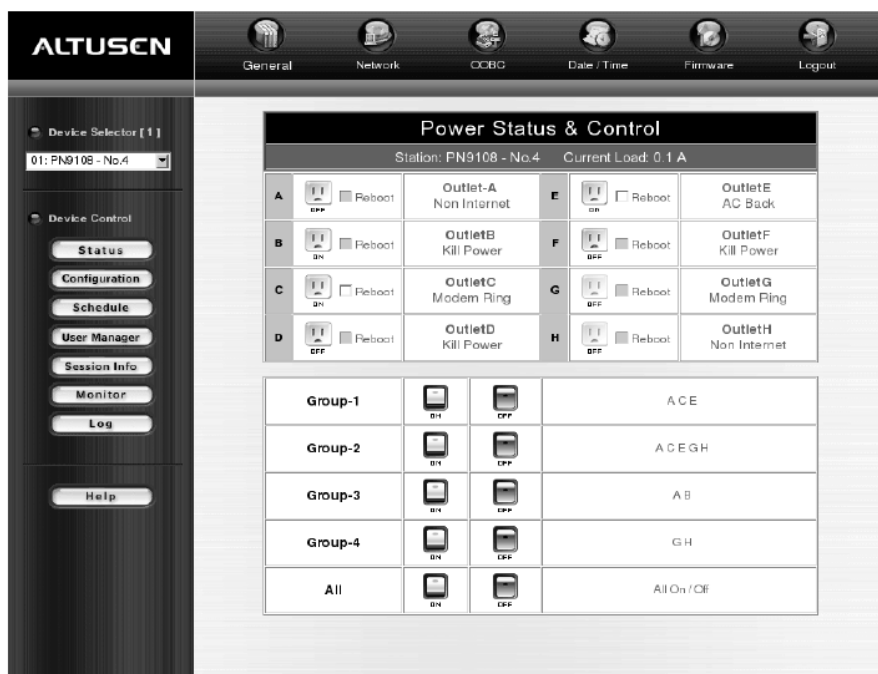
注意: アドミニストレーターとして PN9108 に最初にログインする場合は、以下のユーザーネームとパスワードをご使用ください。

デフォルトユーザーネーム: administrator

デフォルトパスワード: password

PN9108 を安全な状態でお使い頂くためにも、このデフォルトアカウントを別のユーザーネームとパスワードに変更されることを推奨します。(p.38 「Administrator」参照)

PN9108 メイン画面



- ◆ 画面上部に横一列に並んでいるアイコンは、アドミニストレーターが PN9108 の作業環境を定義する際に使用するメニューです。PN9108 の管理機能については第 4 章で説明します。
- ◆ 画面左側に縦一列に並んでいるメニューでは、お使いの構成における PN9108 の設定や管理を行います。一般ユーザーは「Device Selector」リストや「Status」ボタンを使って、アクセス権限のあるデバイス进行操作します。このエリアにあるその他のメニューはアドミニストレーターが電源管理の環境設定を行う際に使用します。
- ◆ PN9108 に Web ブラウザからログインすると、画面中央に「Power Status & Control」メニューが表示されます。PN9108 に接続されたデバイスの電源操作はこのメニューで行います。

注意: 画面左上にある「Altusen」のロゴをクリックすると、弊社ホームページに移動します。

Device Selector

PN9108 は最大 16 台のダイジーチェーン接続に対応しておりますので、このリストにはお使いの構成のステーションが一覧表示されます。「Device Selector」というタイトルの横にあるカッコ内の数字は、お使いの構成におけるステーションの合計を表しています。

ステーションの名前はタイトルの下にあるリストボックスに表示されます。ステーションを選択する場合は、リストの矢印部分をクリックしてリストをドロップダウンさせ、操作対象となるステーションを選択してください。ステーションを選択すると、そのステーションの内容を表す「Power Status & Control」メニューが画面中央に表示されます。



ステーションを選択すると、そのステーションの内容を表す「Power Status & Control」メニューが画面中央に表示されます。

-
- 注意:**
1. PN9108 の各ステーション ID はフロントパネルのステーション ID LED に表示されます。
 2. 「Power Status & Control」画面に表示されている電源出力ポートは、現在「Device Selector」リストで選択されているステーションにおける各デバイスの電源を表します。
 3. 画面左上にある「Altusen」のロゴをクリックすると、弊社ホームページに移動します。
-

Device Control

「Status」ボタンを除いた、「Device Control」パネルにあるボタンは、アドミニストレーターが「Device Selector」パネルで現在選択されているステーションに関する電源管理オプションを設定する際に使用します。これらの機能については第 4 章で詳しく説明しますので、そちらをご参照ください。

「Status」ボタンをクリックすると、現在選択されているデバイス(上記「Device Selector」参照)の「Power Status」画面が起動します。「Power Status」画面については次のセクションで説明します。



Power Status 画面

上部パネル

Power Status & Control			
Station: PN9108 - No.4		Current Load: 0.1 A	
A	Reboot Outlet-A Non Internet	E	Reboot OutletE AC Back
B	Reboot OutletB Kill Power	F	Reboot OutletF Kill Power
C	Reboot OutletC Modem Ring	G	Reboot OutletG Modem Ring
D	Reboot OutletD Kill Power	H	Reboot OutletH Non Internet

電源ソケット

「Power Status」画面の上部パネルには PN9108 リアパネルの A～H の電源出力ポートに対応した電源情報が表示されます。

各電源出力ポートの表示欄は、対応する電源出力ポートの電源ボタンとして機能するソケットアイコンと、電源情報から構成されます。ソケットアイコンをクリックすると、その電源出力ポートに接続されたコンピュータの電源を ON または OFF に切り替えます。電源の状態はアイコンで表示されます。詳細は以下のとおりです。

表示	状態
グレーに点灯	電源出力ポートへの電源が OFF になっていることを表します。
グレーに点滅	電源出力ポートへの電源が OFF になっていますが、「Modem Ring Resume」がリモート電源オプションとして指定されていることを表します。 (詳細に関しては p.45 の「Modem Ring Resume」をご参照ください。)
黄色に点滅	電源出力ポートが電源の状態を変更中であることを表します。(詳細に関しては p.45 の「Modem Ring Resume」および p.46 の「System after AC back」をご参照ください。)
琥珀色に点灯	電源出力ポートへの電源が ON になっていることを表します。
電球マークが点灯	電源出力ポートが過電流状態になっている、または、リレーに失敗したことを表しますので、アイコンをクリックして復旧させてください。ポートの復旧が成功すると、失敗する前の状態に戻り、アイコンが復帰後の状態であることを表します。ポートが復旧できない場合は、弊社技術サポートまでご連絡ください。

電源情報パネル

ソケットアイコンパネルの隣にある電源情報パネルには、電源出力ポート名と現在選択されている電源オプションが表示されます。これらのパラメータはアドミニストレーターによって「Configuration」機能を使って設定されます。(詳細は p.44 参照)

Reboot

「Reboot」が有効になっている(項目にチェックが入っている)場合、ソケットアイコンをクリックし OFF にすると、そのアイコンに対応する電源出力ポートに接続されているコンピュータはシャットダウンではなく、リブートを行います。電源出力ポートがセーフシャットダウン可能なオプションに設定されていない場合、この項目は無効(グレー)になります。この機能の詳細に関しては p.44 「Configuration」をご参照ください。

注意: この機能はセーフシャットダウンが可能なコンピュータでのみ有効です。詳細は、p.27 の「単体使用」の手順 2 をご参照ください。

下部パネル

Group-1	 ON	 OFF	ACE
Group-2	 ON	 OFF	ACEGH
Group-3	 ON	 OFF	AB
Group-4	 ON	 OFF	GH
All	 ON	 OFF	All On / Off

下部パネルでは、お使いの電源出力ポートにおける電源状態をグループで管理することができます。

電源出力ポートをグループ分けすることによって、電源のON/OFFの操作をグループ単位で行うことができるようになります。そのグループのONまたはOFFの電源ボタン(ロッカースイッチアイコン)をクリックすることで、各電源出力ポートに対してアドミニストレーターが設定した電源操作を実行することができます。

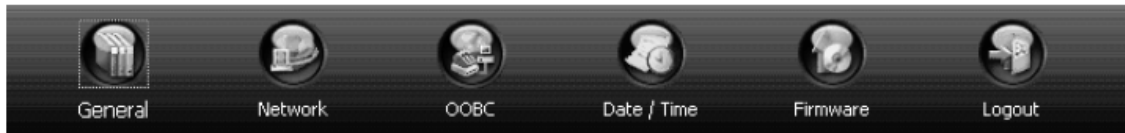
-
- 注意:**
1. この機能をご利用になるには、グループ内の全てのポートに対し操作権限があることが必須条件です。グループ内に操作権限のないポートが1つでもあると、電源ボタンのアイコンをクリックしても無効となりますので、ご注意ください。
 2. グループ内にONの状態のコンピュータとOFFの状態のコンピュータが混在している場合にOFFボタンをクリックすると、電源の状態にかかわらず、すべてのポートの電源がOFFに切り替わります。同様にONをクリックすると、全てのポートの電源がONに切り替わります。
-

電源出力ポートグループの作成と設定に関する詳細は、「Administration」の章の「Configuration」セクション(p.44)で説明しますので、そちらをご参照ください。

第4章 管理メニュー

作業環境の設定

PN9108 の Web メニューの上部に配置されているアイコンを使って、アドミニストレーターは PN9108 の作業環境を設定することができます。



各アイコンの機能については以下のセクションで説明していきます。

General

「General」アイコンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

General Settings

System Information

Name:

Description:

Administrator

Name:

Password:

Confirm Password:

Connection Control

Session timeout: minute(s)

No timeout on monitoring

System Information

「System Information」セクションでは、お使いの構成における PN9108 の名前と、機器に関する付加情報を定義することが可能です。これらの情報の設定は必須ではありませんが、PN9108 に複数台のユニットをダイジーチェーン接続して利用する大規模な構成になる場合は、PN9108 に名前や付加情報を定義することによって管理しやすくなるという利点があります。

PN9108 の名前は半角英数字 30 文字以内で設定してください。

注意: このメニューで設定される PN9108 の名前は、「Configuration」メニューで設定される「Station Name」とは異なりますので、ご注意ください。(p.44 参照)

Administrator

「Administrator」セクションではアドミニストレーターのログインネームとパスワードを設定します。

- ◆ アドミニストレーターのデフォルトユーザーネームは「administrator」です。
- ◆ アドミニストレーターのデフォルトパスワードは「password」です。

セキュリティ上の観点からも、上記のデフォルト値を変更されることを強く推奨します。ユーザーネームとパスワードはそれぞれ半角英数字 4～15 文字で設定してください。

Connection Control

- ◆ 「Session Timeout」の項目ではタイムアウト値を設定します。ここで設定された時間、ログインしたユーザーからの操作がない場合、そのユーザーは自動的にログアウトされ、PN9108 とのセッションは終了します。この項目は 2～99 分の間で設定してください。デフォルト値は 3 分です。0 を設定すると、この機能が無効になります。
- ◆ 「No timeout on monitoring」の項目が有効になっている場合、モニタ機能で PN9108 における電源状況を監視している時にシステムはタイムアウトしません。(詳細は p.52 参照)

Network

「Network Settings」メニューでは、PN9108 のネットワーク情報を設定することができます。

Network Settings	
<input checked="" type="radio"/> Fixed IP Address	<input type="radio"/> DHCP Enable
Network Settings	
IP Address:	10.0.100.65
Gateway Address:	10.0.100.1
Subnet Mask:	255.255.255.0
Service Ports	
HTTP:	80
HTTPS:	443
Telnet:	23
DNS Settings	
Domain Name Server:	10.0.1.23
Host Name:	PN9108
IP Installer Settings	
<input checked="" type="radio"/> Enabled	
<input type="radio"/> View Only	
<input type="radio"/> Disabled	
Save & Restart Restore	

IP アドレスの設定

◆ 固定 IP アドレス

デフォルトではこの項目が選択されています。PN9108 に固定 IP アドレスを設定する場合は、「Network Settings」および「DNS Settings」セクションにおける各項目に、お使いのネットワーク環境で有効な値を設定してください。

◆ 動的 IP アドレス

PN9108 の IP アドレスを自動的に DHCP サーバーから取得して設定する場合は、「DHCP Enable」の項目を選択してください。この項目を選択すると、「Network Settings」セクションにおける項目はすべて無効になり、「Mail Configuration」セクション(下図赤枠部)が表示されます。

The screenshot shows the 'Network Settings' interface. At the top, there are two radio buttons: 'Fixed IP Address' and 'DHCP Enable'. The 'DHCP Enable' option is selected. Below this, there are several sections: 'Network Settings' with fields for IP Address, Gateway Address, and Subnet Mask; 'Service Ports' with fields for HTTP, HTTPS, and Telnet; 'DNS Settings' with fields for Domain Name Server and Host Name; 'IP Installer Settings' with radio buttons for Enabled, View Only, and Disabled; and 'Mail Configuration' which is highlighted with a red box. The 'Mail Configuration' section includes fields for SMTP Server, a checkbox for 'SMTP server requires authentication', Account Name, Password, Email From, Dynamic IP from DHCP, and Email To. At the bottom of the page are 'Save & Restart' and 'Restore' buttons.

1. 「SMTP Server」の項目に、お使いの環境における SMTP メールサーバーのドメイン名またはそのサーバーの IP アドレスを入力してください。
2. お使いのサーバーで認証が必要な場合は、「SMTP server requires authentication」の項目にチェックを入れ、「Account Name」の欄にアカウント名を、また、「Password」の欄にパスワードをそれぞれ入力してください。
3. 「Email From」欄にシステムメールの差出人となるユーザーのメールアドレスを入力してください。
4. 「Dynamic IP from DHCP Email To」の欄にシステムメールの宛先となるユーザーのメールアドレスを入力してください。この欄に入力可能な最大文字数は半角 128 文字です。アドレスを複数定義する場合は、コンマ、セミコロン、スペースのいずれかで区切ってください。
5. これらの項目を設定したら、「Save and Restart」ボタンを押して画面を閉じ、PN9108 をリセットしてください。

注意: 「DNS Settings」セクションの項目がお使いのネットワーク環境において有効な値であることを確認してください。

Service Ports

このセクションに初期表示されているポート番号はデフォルトの設定です。これらの値を変更した場合は、ユーザーはログインする際に IP アドレスのほかにもポート番号を指定する必要があります。例えば、HTTP ポートを 81 に変更した場合、ユーザーは以下のようにポート番号を指定してアクセスしなければなりません。

http://10.0.100.65:81

IP Installer Settings

製品同梱の CD には、PN9108 の IP アドレスを設定する際に使用する IP インストーラーというツールが収録されています。(操作方法については p.87 の方法 1 をご参照ください)「IP Installer Settings」セクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	内容
Enabled	ユーザーはこのツールを使って現在 PN9108 に設定されている IP アドレスの確認や変更を行うことができます。
View Only	ユーザーはこのツールを使って現在 PN9108 に設定されている IP アドレスの確認を行うことができますが、変更を行うことはできません。
Disabled	ユーザーが IP インストーラーを使っても PN9108 を検出することはできません。IP インストーラーに対して PN9108 は非表示になり、IP アドレスを変更することもできません。

Date / Time

「Date/Time」メニューでは、PN9108 のシステムの日付および時刻を設定することができます。
「Date / Time」アイコンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

Date / Time	
Current System Time	
Sys. Date (yyyy-mm-dd)	2004-10-12
Sys. Time (hh:mm:ss)	00:49:55
New System Time	
<input checked="" type="radio"/> Synchronize with computer time	
PC Date (yyyy-mm-dd)	2004-10-12
PC Time (hh:mm:ss)	16:40:43
<input type="radio"/> Synchronize with NTP server	
Time Zone:	GMT+8 Singapore, Taipei
<input type="checkbox"/> Enable daylight saving time (Summer Time)	
<input type="radio"/> Set manually	
Date (yyyy-mm-dd)	2004-10-12
Time (hh:mm:ss)	00:48:41
Save	

上部の「Current System Time」には PN9108 に現在設定されている日付および時刻が表示されます。下部の「New System Time」では PN9108 への日付・時刻の設定方法を選択することができます。方法は以下のとおりです。

- ◆ お使いのコンピュータと日付および時刻を自動的に同期する。
- ◆ インターネット上にある NTP サーバーから日付および時刻を取得する。
- ◆ 日付および時刻を手動入力する。

「Synchronize with NTP server」の項目を選択した際には、「Time Zone」リストから PN9108 がセットアップされている場所が位置するタイムゾーンを選択してください。

注意: PN9108 をファイアウォールの内側にセットアップしている場合は、NTP サーバーとの通信に使用するポートを開放する必要があります。

Firmware

このメニューを使用することでファームウェアのアップグレードを行うことができます。画面上部にある「Firmware」アイコンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。



The screenshot shows a web interface titled "Firmware Upgrade". At the top, there is a black header with the text "Firmware Upgrade" in white. Below the header, the main content area is white and contains the following elements: a section titled "Attach the upload file" with a text input field and a "Browse..." button to its right; a checked checkbox labeled "Check Firmware Version"; and a large "Upload" button centered at the bottom of the form.

Logout

画面上部にある「Logout」アイコンをクリックすると、PN9108 とのセッションを終了します。

注意: PN9108 とのセッションを終了する際には必ずログアウトしてください。ログアウトしないと、再度ログインしようとした際に、タイムアウトまでの時間が経過するまで待機しなければなりません。(p.38「General Settings」の「Connection Control」参照)

電源管理機能の設定

PN9108 の管理者は「Device Control」パネルのメニューボタンを使用することで、お使いの構成における PN9108 の電源管理機能の内容を設定することができます。これらのボタンの機能については以下のセクションで説明していきます。

注意: 各ステーションはこの Web メニューで個別にセットアップを行う必要があります。

Configuration

「Device Control」パネルの「Configuration」ボタンをクリックすると、「Configuration」メニューの画面が表示されます。画面は下図のように 3 つのパネルから構成されています。

Configuration							
Station: STATION_01 FMV Ver: 1.0.093							
Station Name		STATION_01					
Outlet	Name	Modem Ring Resume	System after AC Back	Kill the Power	Confirmation Required	Power On Delay	Power Off Delay
A	OutletA	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
B	OutletB	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
C	OutletC	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
D	OutletD	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
E	OutletE	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
F	OutletF	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
G	OutletG	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec
H	OutletH	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="checkbox"/>	0 sec	0 sec

Outlet Groups		
Group	Name	Outlets In Each Group
Group-1	Group-1	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> F <input type="checkbox"/> G <input type="checkbox"/> H
Group-2	Group-2	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> F <input type="checkbox"/> G <input type="checkbox"/> H
Group-3	Group-3	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> F <input type="checkbox"/> G <input type="checkbox"/> H
Group-4	Group-4	<input type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/> C <input type="checkbox"/> D <input type="checkbox"/> E <input type="checkbox"/> F <input type="checkbox"/> G <input type="checkbox"/> H

UPS Pin Assignments and Signal Polarities			
<input type="checkbox"/> Enable UPS			
Power Fail/On Battery:	PS: CTS	<input checked="" type="radio"/> Negative	<input checked="" type="radio"/> Positive
Low Battery:	PL: DCD	<input checked="" type="radio"/> Negative	<input checked="" type="radio"/> Positive
UPS Shutdown:	PR: DTR	<input checked="" type="radio"/> Negative	<input checked="" type="radio"/> Positive

Warning!
Please consult your UPS documentation before attempting to configure pin assignments and signal polarities.

Save

Configuration メニューの上部パネルでは、各電源出力ポートに対する電源管理の設定を行うことができます。また、これらの設定項目では、ソケットアイコンを ON または OFF に切り替えた際に、その電源出力ポートに対してどのようなアクションを実行するかも定義できます。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	内容
Station Name	複数台の PN9108 を導入し、デジチェーン接続してお使いの環境でも便利にお使いいただけるよう、各ステーションに固有の名前をつけることができます。ステーションに名前をつける場合は、半角英数字 15 文字以内でこの項目を設定してください。
Outlet Name	各電源出力ポートにも固有の名前をつけることができます。電源出力ポートに名前をつける場合は、半角英数字 15 文字以内でこの項目を設定してください。
Modem Ring Resume*	<p>セーフシャットダウン/リブート機能のオプションです。(第 5 章参照) このオプションが選択されている場合、電源出力ポートのソケットアイコンが OFF に変更されると、コンピュータをシャットダウンするまで PN9108 は「Power Off Delay」の項目(下記参照)に設定された秒数待機します。ソケットアイコンが ON にクリックされたときも同様に、PN9108 はその電源出力ポートに接続されているコンピュータでリブートを行うまで、「Power On Delay」の項目で設定された秒数待機します。そのアクションが待機している間、フロントパネルの LED は点滅します。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> このオプションが選択されている場合、コンピュータの電源が OFF になっても、電源は電源出力ポートに供給されます。したがって、コンピュータはローカル操作で電源を ON または OFF にすることができます。このとき、コンピュータの状態と「Outlet Status」の表示内容が一致しないことがあります。この場合、ソケットアイコンはグレーに点滅しています。コンピュータの実際の状態と表示内容を一致させたい場合は、3 回このアイコンをクリックしてください。 この機能を有効にしたにもかかわらず、再起動時に問題が発生した場合は、p.93「トラブルシューティング」の「問題 6」の項目をご参照ください。

(表は次のページに続きます)

項目	内容
System after AC back *	<p>セーフシャットダウン機能のオプションです。(p.55 参照)このオプションが選択された場合、電源出力ポートのソケットアイコンが OFF に変更されると、PN9108 は、その電源出力ポートに接続されたコンピュータでセーフシャットダウンを実行するまで、「Power Off Delay」の項目(下記参照)で設定された秒数待機します。</p> <p>ソケットアイコンが ON にクリックされたときも同様に、PN9108 はその電源出力ポートに接続されているコンピュータでリブートを行うまで、「Power On Delay」の項目で設定された秒数待機します。</p> <p>注意:このオプションが選択されると、電源出力ポートに電源は供給されません。セーフシャットダウンは実行されますが、コンピュータには電源出力ポートから電源が供給されません。</p>
Kill the Power	<p>このオプションが選択されると、ソケットアイコンを使って電源を OFF にした際に、実際に電源が OFF になるまで、「Power Off Delay」の項目で設定された秒数待機します。電源を OFF に切り替えると、コールドシャットダウン(安全でないシャットダウン)を実行します。このオプションを選択すると、メイン画面で「Reboot」の項目にチェックが入っていても無効になります。</p>
Confirmation Required	<p>このオプションが有効になると、処理を実行する前に確認ダイアログが表示されます。この項目にチェックが入っていない場合、ユーザーに確認をとることなく処理が行われますので、ご注意ください。</p>
Power On Delay	<p>ソケットアイコンがクリックされてから、その電源出力ポートに接続されたコンピュータに電源が入るまでに PN9108 が待機する時間を設定します。</p>
Power Off Delay	<p>ソケットアイコンがクリックされてから、その電源出力ポートに接続されたコンピュータの電源が切れるまでに PN9108 が待機する時間を設定します。</p> <p>「System after AC Back」が選択されている場合、遅延時間が経過すると、PN9108 は更に 15 秒待機してからコンピュータをシャットダウンします。</p> <p>最小(デフォルト)遅延時間は 15 秒、最大遅延時間は 999 秒です。</p>

お使いの設定を保存する場合は、「Save」ボタンをクリックしてください。変更内容を保存せずに終了する場合は、お使いの Web ブラウザの「戻る」ボタンで Web ページのメイン画面に戻るか、左側のフレームから別のメニューボタンをクリックしてください。

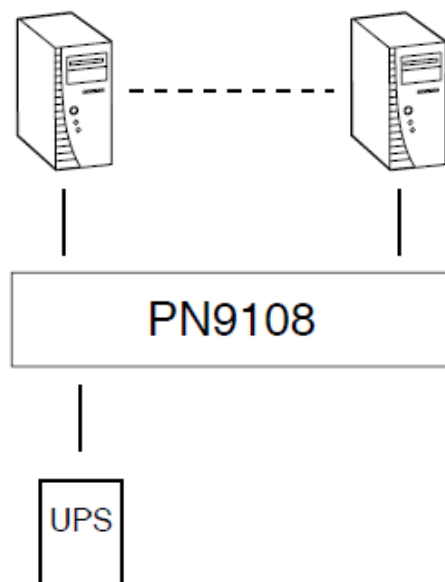
-
- * 「Modem Ring Resume」および「System after AC Back」の各オプションは、セーフシャットダウンに対応したコンピュータでのみご利用いただけます。詳細に関しては、p.27 の「単体使用」の手順 2 をご参照ください。
-

Outlet Groups

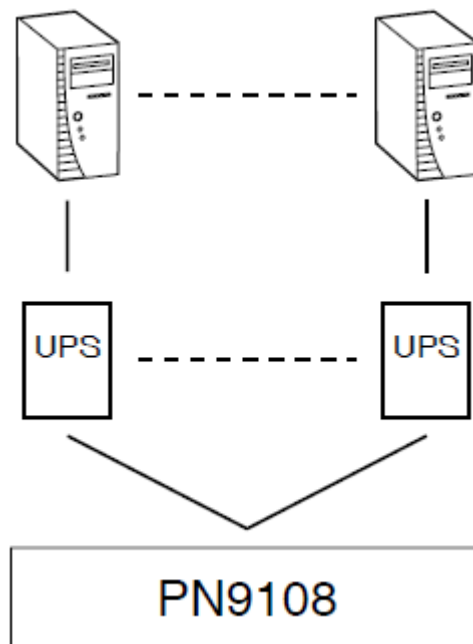
「Configuration」画面 (p.44 参照) の「Outlet Groups」の機能を利用すると、電源管理アクションを、同一グループで一括して行うことができます。各ステーションで、最大 4 つの電源出力ポートグループを定義することができ、それぞれのグループには固有の名前をつけることができます。グループ名は最大 15 文字の半角英数字で定義してください。

UPS

- ◆ PN9108 はシンプルシグナルに対応した UPS を接続してお使いいただけます。UPS を PN9108 の RS-232 ポートに接続して、UPS 機能の設定を有効にすると、主電源が遮断され UPS が作動した際に、PN9108 は自身に接続されたコンピュータのうちセーフシャットダウンを行うように設定されたコンピュータをセーフシャットダウンします。
- ◆ UPS 機能を有効にする場合は、以下の作業を行ってください。
 - 「Configuration」メニューの「Enable UPS」の項目にチェックを入れてください。
 - お使いの UPS に付属しているマニュアル等を参考にしながら「UPS Pin Assignments and Signal Polarities」の各項目を設定してください。
 - UPS で管理するポートの電源管理オプションを「Modem Ring Resume」または「System after AC Back」のセーフシャットダウンに対応したオプションに設定してください。(p.45～46 参照)



- ◆ 下図のように、各コンピュータにそれぞれ UPS を接続し、UPS の電源を PN9108 に接続することも可能です。この場合、以下の点にご注意ください。
 - PN9108 の UPS 機能は RS-232 ポートに接続されたデバイスに対してのみ有効ですので、この形で使用する場合は、PN9108 の UPS 機能を有効にしないでください。
 - UPS は各製品のマニュアルを参考にして設定を行ってください。
 - 各電源ポートの電源管理オプションを「Kill the Power」に設定してください。



Schedule

「Device Control」パネルにおける「Schedule」ボタンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。

Date	Enable/Disable	Shutdown Time (HH:MM)	Restart Time (HH:MM)
MON	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
TUE	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
WED	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
THU	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
FRI	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
SAT	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0
SUN	<input type="checkbox"/>	0 : 0	0 : 0

「Schedule」メニューでは、各電源出力ポートに対して、電源 ON/OFF のタスクを決められた時刻に自動実行することができます。このスケジュール機能をご利用の場合は、以下の手順で操作してください。

1. 上図の上の部分にあるボタン（「OutletA」～「OutletH」）のうち、スケジュールを定義したい電源出力ポートグループのボタンを押します。
2. 指定曜日におけるスケジュールを有効にする場合は、該当する曜日の「Enable/Disable」の項目にチェックを入れてください。
3. 「Shutdown Time」にはコンピュータを自動的にシャットダウンする時刻を、また、「Restart Time」にはコンピュータを自動的に起動する時刻をそれぞれ入力してください。
4. 「Save」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもタスクのスケジュールの定義を行う場合は手順 1～手順 4 の操作を繰り返してください。

User Management

「Device Control」パネルにおける「User Manager」ボタンをクリックすると、「User Management」メニューが表示されます。

















User Management									
PN9108-Station1									
Name	Password	A	B	C	D	E	F	G	H
alfred	****	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
marty	****	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
alice	****	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
william	****	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

「User Manager」メニューで、アドミニストレーターは各ユーザーが PN9108 へのログインの際に必要なユーザーネームとパスワードを設定することができます。ユーザーネーム、パスワードともに、半角英数字 4～15 文字で定義されます。

また、アドミニストレーターは、このメニューで、各ユーザーが操作可能な電源出力ポートを定義することもできます。A～H 列にあるチェックボックスは各電源出力ポートに対応しており、チェックを入れることでその電源出力ポートの操作を許可します。

Monitor

「Device Control」パネルにおける「Monitor」ボタンをクリックすると、「Device Monitor」メニューが表示されます。

Device Monitor										
ID	Name	Current Load	Outlet Status							
			A	B	C	D	E	F	G	H
01	PN9108-Station1	0.10 A	 ON	 ON	 ON	 ON	 ON	 ON	 OFF	 ON
02	CP0108RPSwitch	N/A	 OFF	 ON	 ON	 ON	 ON	 ON	 ON	 ON

「Device Monitor」メニューでは、現在お使いの PN9108 の構成における、すべての電源出力ポートの状態が表示されます。このメニューによって、ユーザーはどのコンピュータの電源が ON/OFF になっているかを一目で確認することができます。

注意: 「System」メニューで「No timeout on monitoring」の項目にチェックが入っていると (p.37 参照)、ユーザーがこの機能を使用している限り PN9108 での操作はタイムアウトしません。

Log

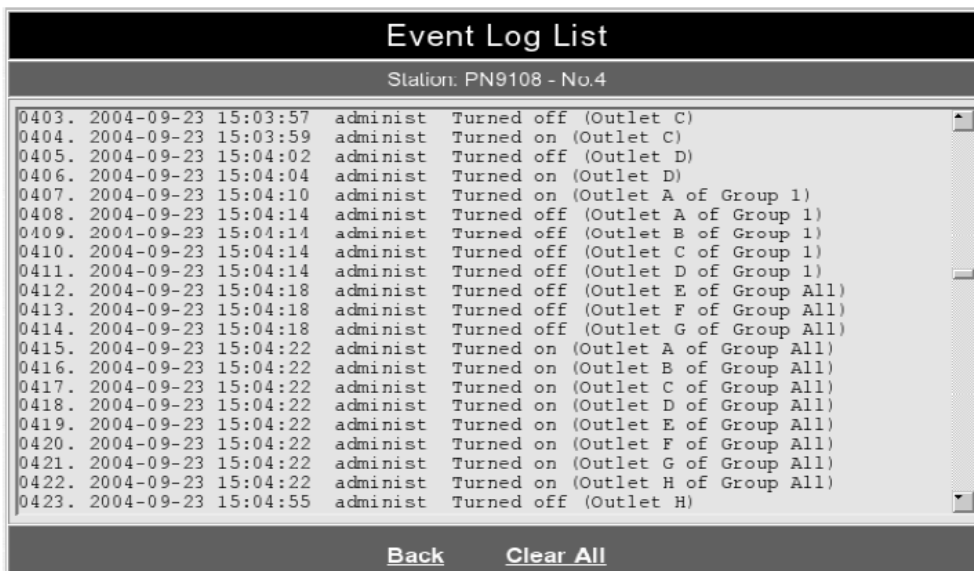
「Device Control」パネルにおける「Log」ボタンをクリックすると、「Event Log」メニューが表示されます。

Event Log		
Station: PN9108 - No.4		
<input checked="" type="radio"/> Today	<input type="radio"/> All	<input type="radio"/> Selected
From : (YYYY/MM/DD)	2004/10/14	
To : (YYYY/MM/DD)	2004/10/14	
OK		

PN9108 では、内部で発生した直近のイベントを最大 2048 件まで保持します。この画面では、参照したいイベントの範囲を指定することができます。

- ◆ 本日のログだけを参照する場合は、「**Today**」のラジオボタンを選択し、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ すべてのログを参照する場合は、「**All**」のラジオボタンを選択し、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 特定期間のログを参照する場合は、「**Selected**」のラジオボタンを選択し、「From」欄に対象期間の開始日を、「To」の欄に終了日をそれぞれ入力し、「**OK**」ボタンをクリックしてください。

「Event Log List」で「OK」ボタンをクリックすると、以下のような画面が表示されます。



イベントリストの参照が終了したら、必要に応じて以下の操作を行ってください。

- ◆ 「Event Log」画面に戻る場合は、「Back」ボタンをクリックしてください。
- ◆ ログファイルの内容をすべて削除する場合は、「Clear All」ボタンをクリックしてください。
- ◆ このメニューを終了する場合は、「Device Control」にある「Log」以外のボタンをクリックしてください。

第5章

セーフシャットダウン/リブート

概要

PN9108 のセーフシャットダウン/リブート機能は特定のバージョンの Windows が搭載されているコンピュータでご利用いただけます。電源供給を単純に停止してコンピュータの電源を切った場合、そのコンピュータのファイルシステムに影響を与える場合がございますが、このセーフシャットダウン/リブート機能をご利用いただければ、お使いのシステムを安全に終了し、シャットダウン/リブートすることが可能です。この機能をご利用いただく際には、以下の注意事項の内容をご確認ください。

- ◆ PN9108 とコンピュータの間にシャットダウンケーブルを必ず接続してください。(p.27「単体使用」参照)
- ◆ コンピュータの BIOS の電源管理の設定で、「Modem Ring Resume」または「System after AC back」のいずれかを有効にしてください。BIOS にこれらの項目が両方ある場合は、両方とも有効にされることを推奨します。

BIOS における電源管理設定

お使いのコンピュータの BIOS で電源管理の設定を行う場合は、以下の注意事項を必ずご覧ください。

1. BIOS での設定内容と、電源出力ポートの「Configuration」メニューで設定した内容が一致していることを確認してください。(p.44「Configuration」参照)
2. 「Modem Ring Resume」を選択した場合は、以下の点にご注意ください。
 - a) お使いのシステム BIOS がこの機能に対応している必要があります。
 - b) お使いのコンピュータのマニュアルをご覧ください、そのシステムが COM ポートの外部モデムウェークアップ機能に対応しているかご確認ください。(一部の BIOS のバージョンでは内部 PCI カードモデム使用時以外には、この機能をサポートしない場合があるため)
 - c) お使いの BIOS が COM ポートの外部モデムウェークアップ機能に対応していない場合は、この機能をご利用になるために内部 PCI カードモデムをセットアップしても差し支えありません。

3. システムによっては、「Modem Ring Resume」が別の言葉で表されている場合があります。以下はその例です。

- ◆ Wake On LAN / Ring Connector
- ◆ Modem Ring On
- ◆ Power On By External Modem

BIOS の設定では、この項目を「**Enabled**」(有効)に設定してください。

4. システムによっては、「System after AC back」が別の言葉で表されている場合があります。以下はその例です。

- ◆ AC Loss Auto Restart
- ◆ Restore on AC Power Loss

BIOS の設定では、この項目を「**Power On**」(または **Full On**)に設定してください。

5. Windows NT をお使いの環境では、「System after AC back」機能を使用してください。

自動セットアップ


セーフシャットダウン/リブートの設定は、自動または手動の 2 種類の方法で行うことが可能です。このセクションでは、自動セットアップの方法について説明します。手動セットアップの詳細については p.59 で説明しますので、そちらをご参照ください。自動セットアップは、製品同梱のソフトウェア CD に収録されている電源モニターティリティである Power Monitor をご利用いただくことで可能です。


注意: Power Monitor は Windows のみで動作します。

Power Monitor は、UPS の信号によってコンピュータの電源の状態を監視します。UPS が電源障害もしくはバッテリー不足であることを信号で通知すると、ダイアログボックスがポップアップ表示され、数秒以内にセーフシャットダウンを実行するというメッセージが表示されます。

インストール

Power Monitor をインストールする場合は、自己解凍ファイル (PMonitorSetup.exe) を実行してください。OS が起動したときに、このプログラムが自動的に立ち上がるように、PMonitor.exe のショートカットが Windows のスタートアップに作成されます。

監視が有効である場合、稲妻をかたどったアイコン()が Windows のタスクトレイに現れます。

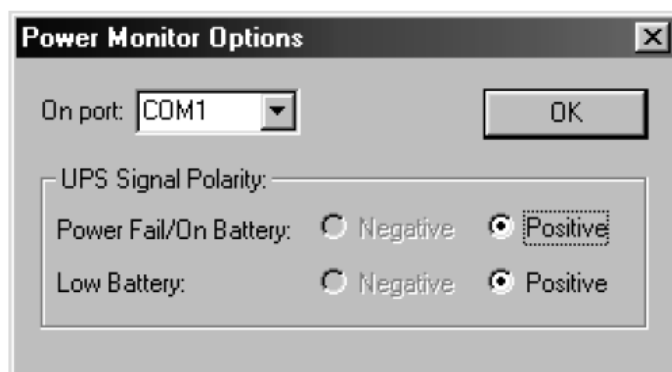
また、監視が一時的に無効になっている場合、停止状態のアイコン()が表示されます。

- ◆ この稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Start Monitor」を選択すると監視を有効にし、「Stop Monitor」を選択すると、監視を無効にします。
- ◆ この稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Exit」を選択すると、Power Monitor を終了します。

デフォルトでは、Power Monitor は COM1 ポートを監視します。ユーティリティによって「COM1 ポートを開くことができない」という内容のエラーメッセージが表示された場合、そのポートが別のプログラムによって使用されていることを意味します。

この場合、COM1 を使用しているプログラムを停止して再試行するか、Power Monitor が別の COM ポートを使用するように設定することで解決します。Power Monitor で別の COM ポートを使用する場合は、以下の手順で操作してください。

1. Power Monitor プログラムを停止してください。
2. セーフシャットダウンケーブルを COM1 以外のポートに接続してください。
3. 停止状態を表す稲妻のアイコンを右クリックし、メニューから「Options」を選択してください。以下のようなダイアログが表示されます。



4. 「On Port」というラベルがついている COM ポートのリストから、セーフシャットダウンケーブルが接続されている COM ポートを選択し、「OK」ボタンを押してください。

注意: この画面には設定項目が複数存在しますが、ユーティリティは正の UPS 信号のみを監視するため「UPS Signal Polarity」の各項目は固定値(正)を使用します。この画面では、通信で使用する COM ポートのみを選択してください。

アンインストール

ユーティリティをアンインストールする場合は、以下の手順で作業してください。

1. Power Monitor プログラムを終了します。
2. Windows のスタートメニューを開きます。
3. [プログラム]—[ALTUSEN Power Monitor]—[Uninstall Power Monitor] を選択してください。

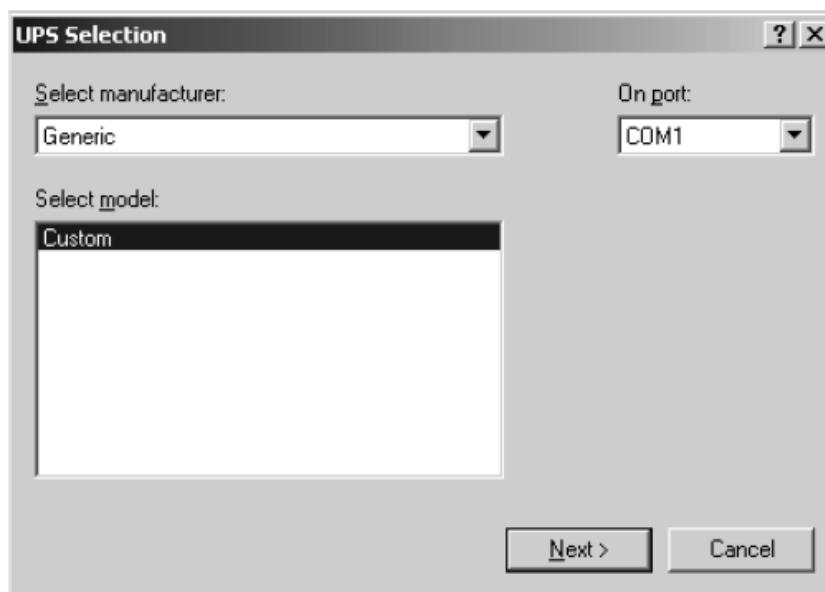
手動セットアップ

Windows NT、2000、XP および Windows Server 2003 は、Power Monitor ユーティリティを使わず、セーフシャットダウン/リブートに関する設定を手動で行うことが可能です。以下のセクションでは、その手順について説明していきます。

Windows 2000/XP/Server 2003

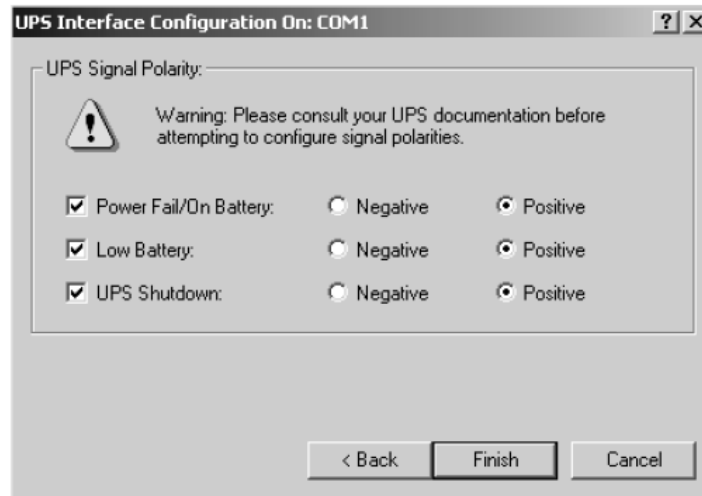
Windows 2000、XP または Windows Server 2003 でセーフシャットダウン/リブートの設定を行う場合、以下の手順で操作してください。

1. [コントロールパネル]—[電源オプション]のメニューを起動し、表示されたダイアログで[UPS]タブを開いてください。[詳細]パネルにある[選択]ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



- a) 「ポート」のリストから、セーフシャットダウンケーブルが接続されているコンピュータの COM ポートを選択してください。
- b) その他の項目は、上図の内容と同じになるように設定してください。

2. 「Next」ボタンをクリックしてください。下図のようなダイアログが表示されます。

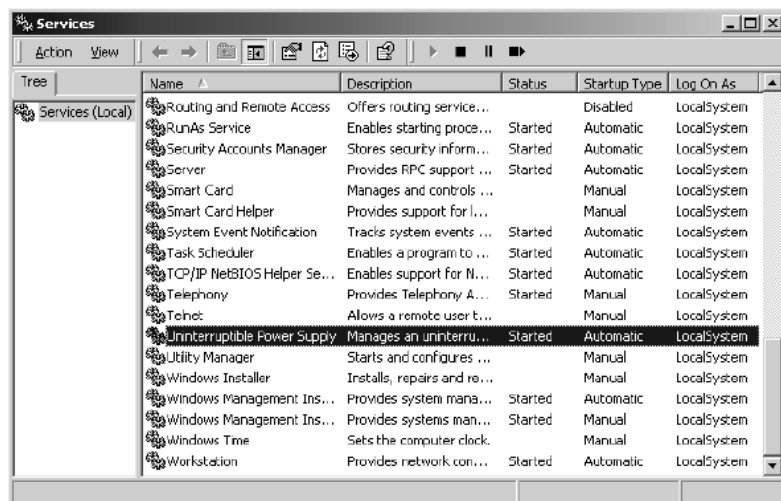


お使いの環境を、上図の内容に設定してください。

3. 「UPSの構成」ダイアログで「完了」ボタンをクリックし、「電源のオプションプロパティ」ダイアログで「OK」ボタンをクリックしてください。

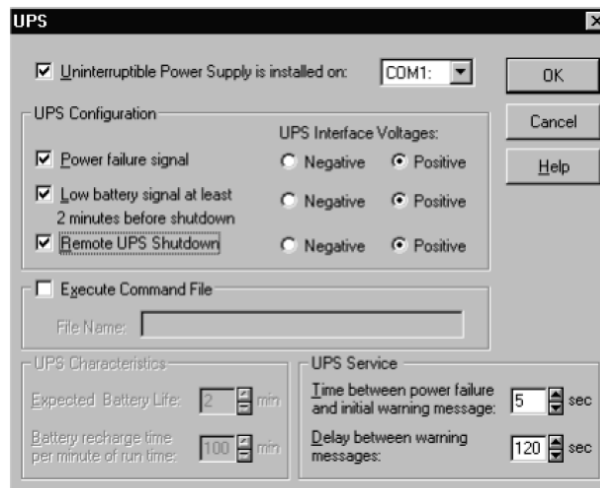
以下の手順で、セットアップした内容で正しく動作しているかどうか確認することができます。

1. [コントロールパネル]—[管理ツール]—[サービス]メニューを表示します。
2. [サービス]メニューで、下図のように「Uninterruptible Power Supply」の状態が「開始」になっていることを確認してください。



Windows NT

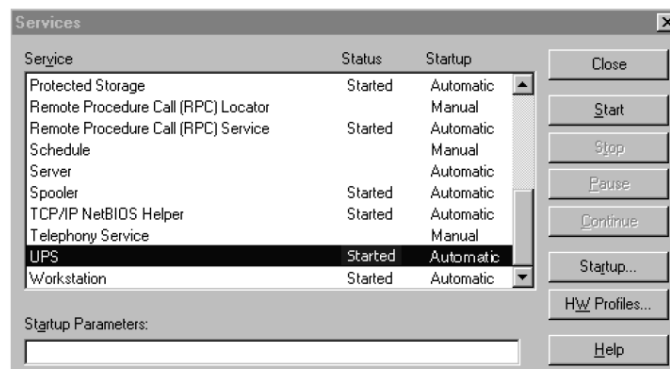
1. [コントロールパネル]—[無停電電源(UPS)]メニューを選択してください。以下のようなダイアログが表示されます。



- a) COM ポートの一覧から、セーフシャットダウンケーブルが接続されているコンピュータの COM ポートを選択してください。
 - b) その他の項目は、上図の内容と同じになるように設定してください。
2. 「OK」ボタンをクリックし、設定を完了してください。

以下の手順で、セットアップした内容で正しく動作しているかどうか確認することができます。

1. [コントロールパネル]—[サービス]メニューを表示します。
2. [サービス]メニューで、下図のように「Uninterruptible Power Supply」の状態が「開始」になっていることを確認してください。



第6章 アウトオブバンド操作

PN9108 が接続しているネットワークがダウンした、また、何らかの理由で Web ブラウザから PN9108 にアクセスできなくなった場合に備えて、PN9108 は以下のようなシリアルポートを用いたアウトオブバンド機能による複数の方法でアクセスすることが可能です。

- ◆ RS-232 ポートとローカルコンピュータの COM ポートを接続し、ローカルコンピュータのコンソールターミナル(例:ハイパーターミナル、GTK ターミナル)から PN9108 を操作する。
- ◆ RS-232 ポートをモデムに接続し、ダイヤルアップ接続してからコンソールターミナル操作を行う、もしくは、ISP インターネット接続によって PN9108 にアクセスしブラウザ操作を行う。

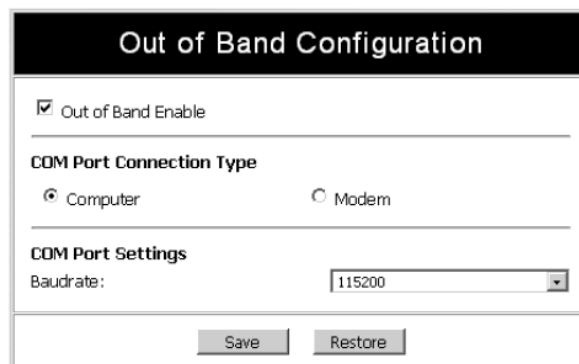
ここではアウトオブバンド機能を利用した各アクセス方法と、そのセットアップ方法について説明します。

Out of Band Configuration

PN9108 をアウトオブバンド操作する場合は、Web 画面上部にある「OOBC」アイコンをクリックしてください。



このアイコンをクリックすると以下のような画面が表示されます。

A screenshot of a web browser window showing the 'Out of Band Configuration' page. The title bar says 'Out of Band Configuration'. The page content includes a checked checkbox for 'Out of Band Enable'. Below that is a section for 'COM Port Connection Type' with radio buttons for 'Computer' (selected) and 'Modem'. Underneath is a section for 'COM Port Settings' with a 'Baudrate:' label and a dropdown menu showing '115200'. At the bottom are 'Save' and 'Restore' buttons.

画面内にある「Out of Band Configuration」の項目にチェックを入れて、アウトオブバンド機能を有効にしてください。

注意: アウトオブバンド機能やUPS対応機能をご利用いただく際にはRS-232ポートを使用しますが、PN9108にはRS-232ポートが1箇所しかありませんので、この2つの機能を同時に使用することはできません。アウトオブバンド機能をご利用の際には、UPS機能は自動的に無効になりますので、ご注意ください。

「COM Port Connection Type」セクションでは、COMポートの接続タイプを「Computer」または「Modem」のいずれかに選択します。

コンピュータ接続

ローカルコンピュータのCOMポートとPN9108のRS-232ポートを直接接続する場合は、「COM Port Connection」セクションで「Computer」のオプションを選択します。

1. 「COM Port Settings」セクションの「Baudrate」リストから、ローカルコンピュータのCOMポートとPN9108のRS-232ポートが通信に使用するボーレートを選択してください。(通常は115200を選択します。)
2. 「Save」ボタンをクリックして、ボーレートの設定内容を保存してください。

注意: 「Restore」ボタンをクリックすると、ボーレートの設定を変更前の値に戻します。

3. ヌルモデムケーブルを使って、ローカルコンピュータのシリアルポートとPN9108のRS-232ポートを接続してください。

注意: ヌルモデムケーブルは、フルハンドシェイク接続、またはループバックハンドシェイク接続ができるように配線されていなければなりません。詳細は p.100 の図をご参照ください。

上記の設定によりPN9108に対してダイレクト接続またはPPP接続ができるようになります。ダイレクト接続の方法は p.68 に、また、PPP接続の方法は p.75 にそれぞれ記載されておりますので、そちらをご参照ください。

モデム接続

モデム接続機能を利用することによって、遠隔地からダイヤルインターミナル接続、PPP ダイアルイン接続、またはダイヤルアウト接続の方法で PN9108 にアクセスすることができます。

ダイヤルアウト接続をご利用の場合、ご契約いただいている ISP (インターネットサービスプロバイダー) から発行されたアカウントを使用してモデムによるダイヤルアップ接続を行う必要があります。PN9108 をダイヤルアップ接続でご利用いただく場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1. 「Out of Band Configuration」の画面から、「COM Port Connection Type」として「Modem」を選択してください。以下のようにモデム接続に関連する項目が表示されます。

The screenshot shows the 'Out of Band Configuration' window. At the top, 'Out of Band Enable' is checked. Below that, 'COM Port Connection Type' has 'Modem' selected. Under 'COM Port Settings', 'Baudrate' is set to 115200. The 'Enable dial out' checkbox is checked. Under 'Modem Settings', 'Modem Type' is 'Generic Modem'. There are fields for 'Initialization String', 'ISP Settings' (Phone Number, Username, Password), and 'Dial Out Schedule' (Every, Never, Daily at). Under 'Emergency dial out', 'PPP keeps online until network recovery' is selected. Under 'Mail Configuration', 'SMTP Server' is empty, 'SMTP server requires authentication' is unchecked, and there are fields for 'Account Name', 'Password', 'Email From', 'Dynamic IP from ISP', and 'Email To'. At the bottom are 'Save', 'Restore', and 'Disconnect' buttons.

2. お使いの PN9108 でアウトオブバンド機能が有効になっていることを確認してください。(「Out of Band Enable」の項目が有効になっている(チェックが入っている)とこの機能がご利用いただけます)

3. 「COM Port Settings」セクションにある「Baudrate」のリストから、お使いのモデムがインターネットサービスプロバイダーに接続する際に使用するボーレートを選択してください。
4. お使いのPN9108でダイヤルアウト接続を可能にする場合は、「Enable dial out」の項目にチェックを入れて、ダイヤルアウト機能を有効にしてください。

注意: この機能が有効になっていないと、ダイヤルイン接続しか行うことができません。この場合、「Dial Out Schedule」で設定された項目はすべて無効になります。

5. 「Modem Settings」のセクションで、以下の方法でお使いのモデムの設定を行ってください。
 - ◆ 「Modem Type」リストの項目にお使いのモデムの種類が該当しない場合は「Generic Modem」を選択してください。
 - ◆ お使いのモデムの初期化文字列を「Initialization String」の欄に入力してください。この文字列がご不明な場合は、お使いのモデムの取扱説明書をご参照ください。
6. 「ISP Settings」のセクションで、契約されているインターネットプロバイダーに接続する際に必要となる電話番号、ユーザーネーム、パスワードを入力してください。
7. 「Dial out Schedule」のセクションで、ISP へのダイヤルアウト接続でPN9108がオンラインになる回数を設定してください。
 - ◆ 「Every」の項目を選択した場合、ダイヤルアウト接続のスケジュールの頻度をリストから設定します。選択項目として、Never(なし)、または1~4時間おきの頻度を設定することが可能です。

注意:

1. PN9108 を定期的にダイヤルアウト接続しない場合は、リストから「Never」を選択してください。
2. 例えば、「Every」リストから「2hour」を選択した場合、PN9108 は現在の時間の直後の00分からダイヤルアウト接続を行い、2時間おきに接続を行います。例えば、現在13:10の場合は14:00からダイヤルアウト接続を開始し、16:00、18:00、20:00…というように2時間毎に接続します。

- ◆ 「Dial at」の項目を選択すると非定期的なダイヤルアウト接続の開始時刻を設定することができます。時刻は「hh:mm」のフォーマットで入力し、複数の時刻を設定する場合、各時刻はセミコロンで区切ってください。(セミコロンの前後にスペースを入力しないでください。)以下は入力例です。

09:18;11:24;15:30

PN9108 は毎日この欄で設定された時刻にダイヤルアウト接続を行います。

- ◆ 「PPP online time」の項目では PN9108 が ISP 接続でオンライン状態を保持する時間を設定します。

8. ネットワークがダウンした場合、また、PN9108 がネットワークから切断された場合に、緊急ダイヤルアウト接続の機能を利用すれば、ISP へのダイヤルアップ接続で PN9108 をオンラインにすることができます。

- ◆ 「PPP keeps online until network recovery」を選択した場合、ネットワークが復帰するか PN9108 がネットワークに再び接続できるまで、ISP に対する PPP 接続が持続します。

- ◆ 「PPP online time」を選択した場合、ここで設定された時間が経過すると ISP への接続は終了します。

9. 「Mail Configuration」セクションでは、ダイヤルアウト接続が行われたときに ISP から PN9108 に対して割り当てられた動的 IP アドレスをメール通知する機能をご利用になる場合に必要となる設定を行います。

- ◆ 「SMTP Server」の欄に ISP の STMP メールサーバーの名前または IP アドレスを入力してください。

- ◆ お使いの環境の SMTP サーバーで認証が必要である場合は「SMTP server requires authentication」の項目にチェックを入れ、「Account Name」および「Password」の項目にアカウント名とパスワードを入力してください。

- ◆ 「Email From」の欄に、ISP のアカウントのメールアドレスを入力してください。

- ◆ 「Email to」の欄に、メールの宛先となるユーザーのメールアドレスを入力してください。

注意: この欄には最大 128 文字入力することができます。ユーザーのメールアドレスを複数保存する場合は、コンマ、セミコロン、スペースのいずれかを使用して文字列を区切ってください。

各ボタンの機能

- ◆ 入力した内容を保存する場合は「**Save**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 入力した内容を保存せず、元の値に戻す場合は「**Restore**」ボタンをクリックしてください。
- ◆ 「Disconnect」ボタンはアウトオブバンド機能を使ったモデム接続を行っているときにのみ有効になります。このボタンをクリックすると接続を終了します。

ダイレクトターミナル接続(ハイパーターミナル)

ハイパーターミナル

1. 9ピンのヌルモデムケーブル(ピン2-ピン3、ピン3-ピン2)で、お使いのコンピュータのCOMポートとPN9108のRS-232ポートを接続してください。

注意: ヌルモデムケーブルは、フルハンドシェイク接続、またはループバックハンドシェイク接続ができるように配線されていなければなりません。詳細は p.100 の図をご参照ください。

2. お使いのコンピュータで、以下の手順でハイパーターミナルを起動してください。
[スタート] - [プログラム] - [アクセサリ] - [通信] - [ハイパーターミナル]

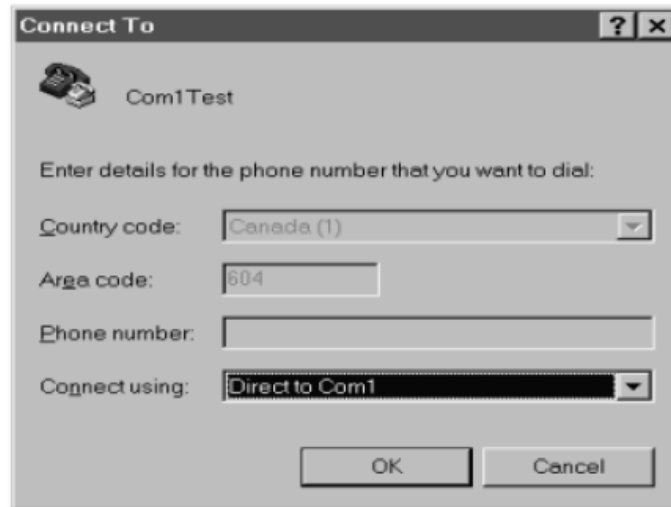
以下のような画面が表示されます。



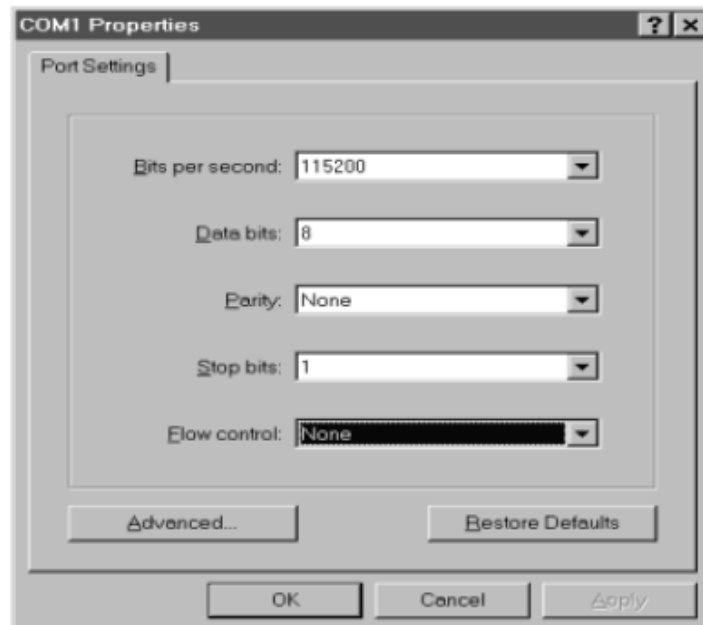
接続につける名前を、「名前」の欄に入力してください。(ここでは「Com1Test」という名前を使用します。)この接続を表すアイコンを下のリストから選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

注意: これ以降、本マニュアルでは、ハイパーターミナルの設定例として、COM1ポートと「Com1Test」という接続名を使用して説明していきます。実際に設定する場合は、この部分をお使いの環境に適宜置き換えて作業を進めてください。

「OK」ボタンをクリックすると、以下のようなダイアログボックスが表示されます。



3. 「接続方法」リストから、通信に使用する COM ポートを選択してください。(例えば、お使いのコンピュータで COM1 をご利用の場合、「COM1」を選択します。) COM ポートを選択したら、「OK」ボタンをクリックしてください。下図のようなポート設定ダイアログボックスが表示されます。



- アウトオブバンド接続の場合、PN9108 のシリアルポートとコンピュータの COM ポートは同じ内容で設定しなければなりません。設定に相違点が見られる場合はこのダイアログボックスで設定内容を変更し、「OK」ボタンを押してください。(詳細は p.64 参照)

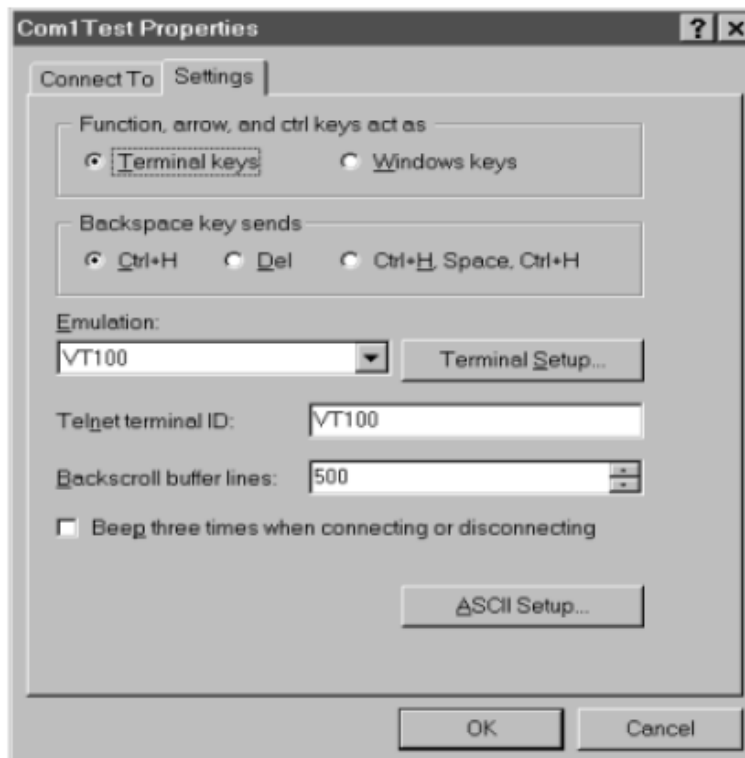
注意: PN9108 のデフォルト設定は以下のとおりです。

ビット/秒 : 115200 データ ビット : 8

パリティ : なし ストップ ビット : 1

上記の内容に設定し、お使いの環境で不都合が生じる場合は、ボーレートの値を変更していただいても結構ですが、PN9108 のシリアルポートの設定とコンピュータの COM ポートの設定が一致していることを確認してください。

- ハイパーターミナルの画面が表示されたら、メニューバーから[ファイル]-[プロパティ]を選択し、「Com1Test のプロパティ」ダイアログを表示して、「設定」タブを開いてください。



- 必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更し、「ASCII 設定」ボタンをクリックし、「ASCII 設定」ダイアログを表示します。



- 必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- ハイパーターミナルのウィンドウを終了するとダイアログが表示され、接続終了の可否を問うメッセージが表示されますので、接続を終了する場合は「はい」を選択してください。また、この接続に関する設定内容の保存の可否を問うダイアログが表示された場合も、同様に「はい」を選択してください。

これでハイパーターミナルのセットアップは終了です。Windows NT、2000、XP、および Windows Server 2003 をお使いの環境では、PN9108 への接続用に作成されたハイパーターミナルのアイコンはデスクトップ上に作成されます。Windows 98 または ME をお使いの環境では、アイコンが作成されませんので、Windows のスタートメニューからハイパーターミナルをご利用ください。

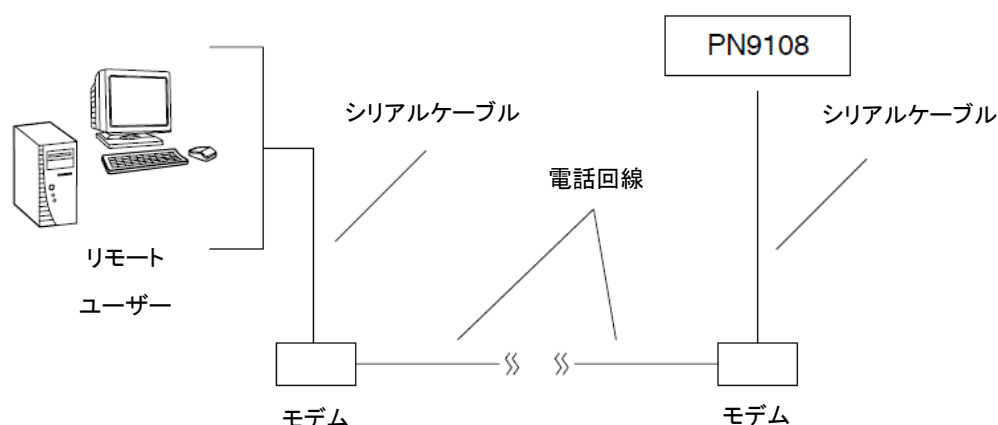
ログイン

- デスクトップにあるハイパーターミナルのアイコンをダブルクリックしてください。
- VT100 ターミナルウィンドウで以下の文字列を入力してください。
???
この文字列を入力すると、ログインプロンプトが表示されます。
- ユーザーネームとパスワードを入力し、PN9108 のメインメニューを起動してください。

非ダイレクトターミナル接続(ハイパーターミナル)

接続方法

1. 下図の構成になるように、お使いのハードウェア環境をセットアップしてください。



-
- 注意:**
1. モデムへの接続には標準9ピンシリアルモデムケーブルを使用してください。
 2. PN9108 の RS-232 ポートと PN9108 が使用するモデムのシリアルポートを接続してください。
-

2. ハイパーターミナル接続を行ってください。
 - a) ハイパーターミナルのセットアップ (p.68) の手順 2 から作業してください。
 - b) 手順 3 の「接続方法」リストで、お使いのモデムのドライバーのフルパスを入力するか、リストから「標準 28800bps モデム」を選択してください。
 - c) 手順 4~8 に従ってセットアップを進め、接続へのショートカットアイコンを作成してください。

これでハイパーターミナルのセットアップは終了です。Windows NT、2000、XP、および Windows Server 2003 をお使いの環境では、PN9108 への接続用に作成されたハイパーターミナルのアイコンはデスクトップ上に作成されます。Windows 98 または ME をお使いの環境では、アイコンが作成されませんので、Windows のスタートメニューからハイパーターミナルをご利用ください。

最終確認

モデムおよび COM ポートのセットアップが正しいかどうかは以下の方法で確認してください。

1. コントロールパネルを開いてください。

[マイコンピュータ]—[コントロールパネル]

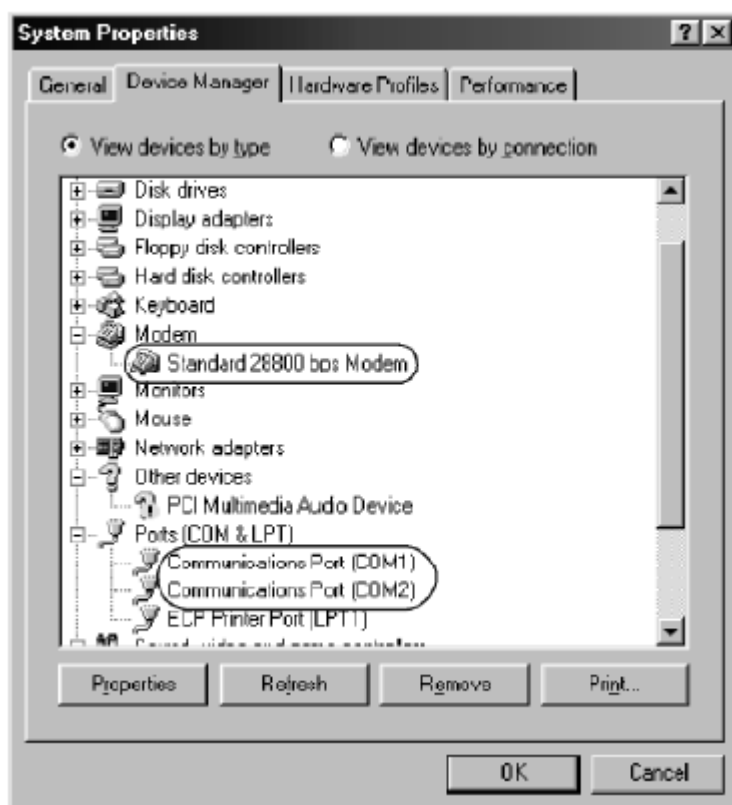
2. [新しい接続を作成する]フォルダを開いてください。

正しく設定できていると、この接続につけられた名前が表示されます。

3. デバイスマネージャを開いてください。

[マイコンピュータ]—[コントロールパネル]—[システム]—[デバイスマネージャ]

お使いのモデムとポートの内容が下図のように表示されます。



ログイン

1. 「Out of Band Configuration」画面 (p.64 参照) で、ダイヤルアウト機能が無効(「Enable dial out」にチェックが入っていない)になっており、PN9108 のボーレートが 115200 に設定されていることを確認してください。
2. デスクトップにあるハイパーターミナルのアイコンをダブルクリックしてください。
3. VT100 ターミナルウィンドウで以下の文字列を入力してください。
atdt [PN9108 に接続されているモデムの電話番号] [Enter]

ターミナルから以下のような応答があります。

```
CONNECT115200
```

4. 60 秒以上待機した後で以下の文字列を入力してください。
???
5. ユーザーネームとパスワードを入力して PN9108 のメインメニューを起動してください。

ダイレクトダイヤルイン接続 (PPP)

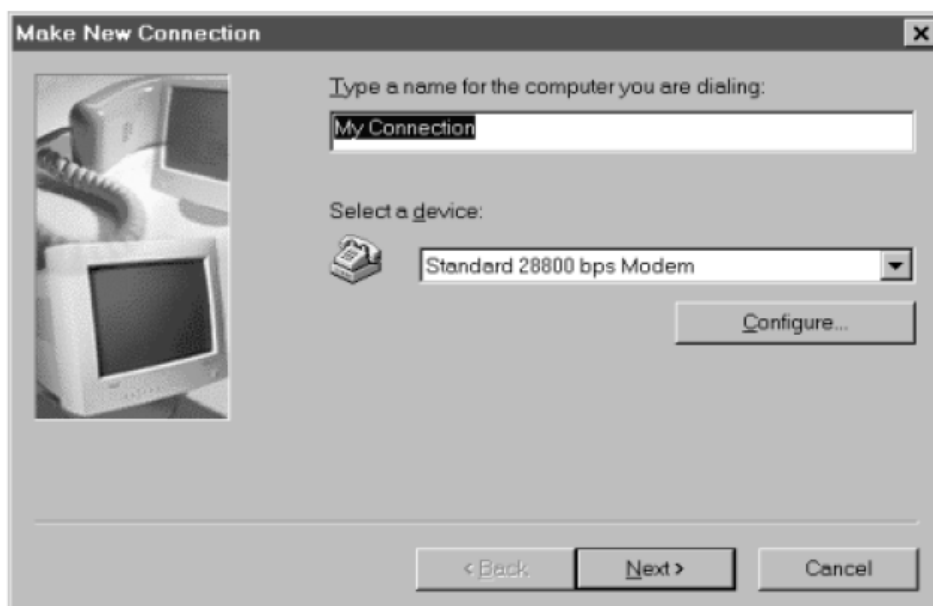
この方法では COM ポートにダイレクトに接続して通信します。

接続設定

1. ヌルモデムケーブルを使って、ローカルコンピュータのシリアルポートと PN9108 の RS-232 ポートを接続してください。

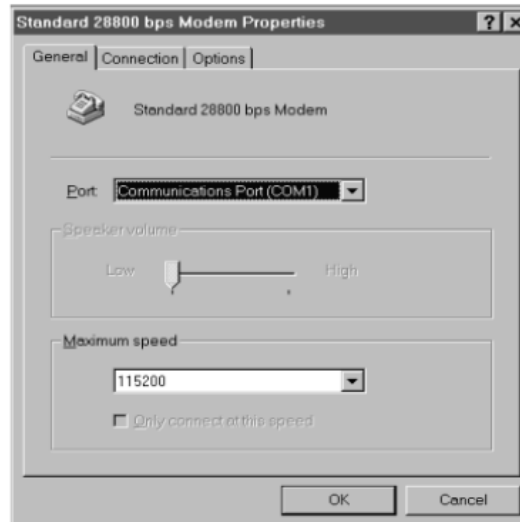
注意: ヌルモデムケーブルは、フルハンドシェイク接続、またはループバックハンドシェイク接続ができるように配線されていなければなりません。詳細は p.100 の図をご参照ください。

2. お使いの PC で、[新しい接続を作成する]フォルダを開いてください。
[スタート]–[プログラム]–[アクセサリ]–[通信]–[新しい接続を作成する]
以下のような画面が表示されます。



注意: ここでは、ハイパーターミナルの設定例として、COM1 ポートを使用して説明していきます。実際に設定する場合は、この部分をお使いの環境に適宜置き換えて作業を進めてください。

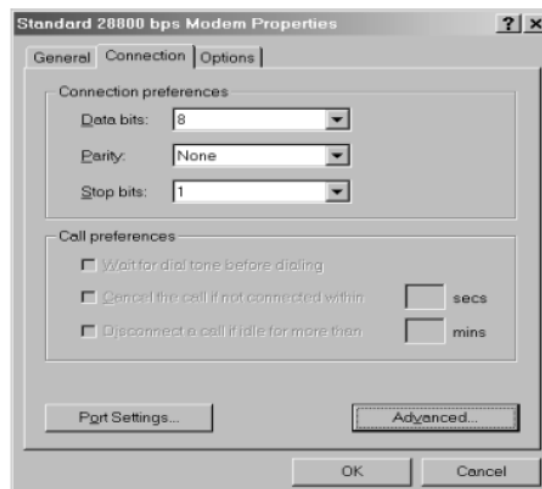
- 「接続名」の欄に任意の接続名を入力し、「モデムの選択」リストから「標準 28800bps モデム」を選択して、「設定」ボタンをクリックしてください。以下のようなモデムのプロパティダイアログが表示されます。



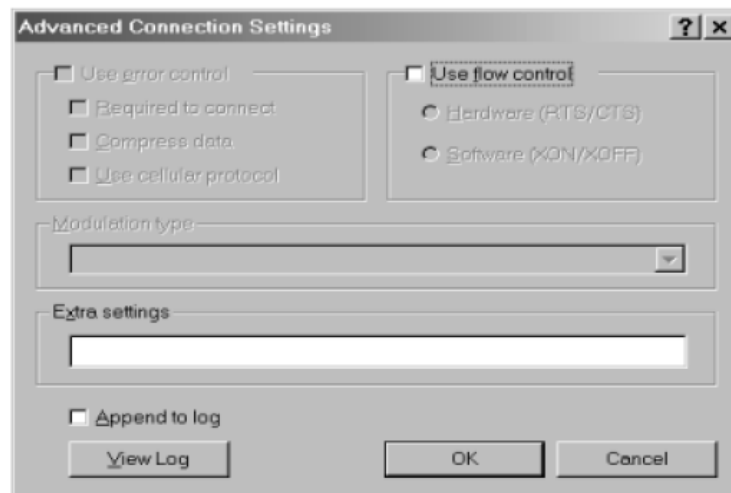
必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更してください。(COMポートは実際にお使いの環境に合うように適宜変更してください)

注意: ボーレート(速度)を変更した場合、変更後の値を有効にするためにモデムを再起動する必要があります。

- [接続]タブを選択し、接続設定画面を開いてください。



- 必要であれば、お使いの環境における設定内容を上図の内容に変更し、「詳細」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



- 「フロー制御を使う」の項目にチェックが入っている場合は、これを外し、「OK」ボタンをクリックしてください。
- 「OK」ボタンをクリックした後、「次へ」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。

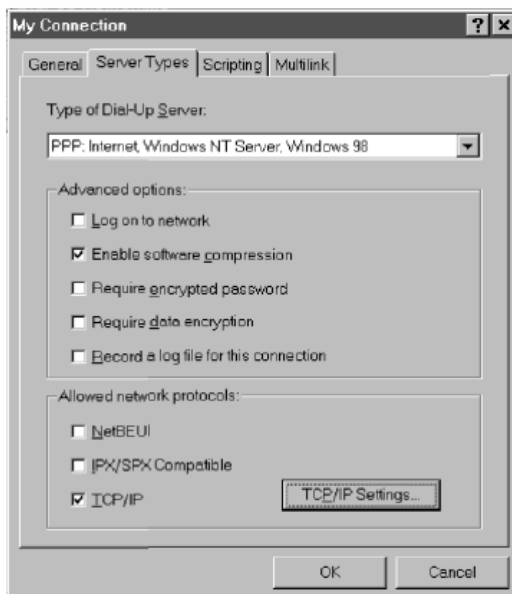


- 電話番号を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
- 「完了」ボタンをクリックしてください。

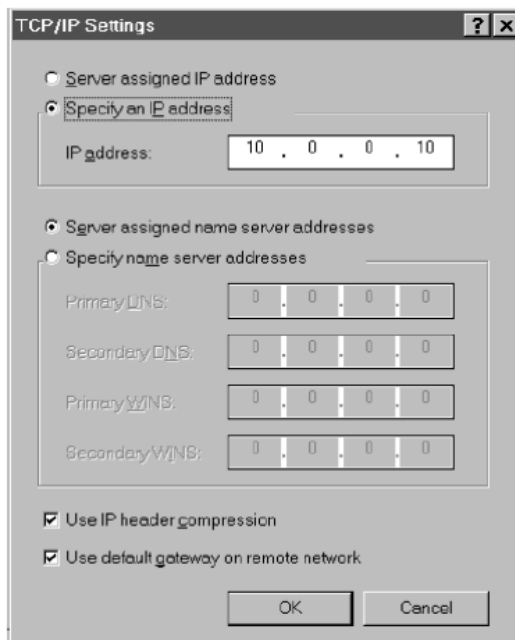
以上の作業で、PN9108 に接続するためのアイコンがダイヤルアップ接続フォルダに作成されます。

最終確認

1. 先ほど作成したアイコンを右クリックし、メニューから「プロパティ」を選択してください。表示されたダイアログから「サーバーの種類」タブを選択してください。



2. このタブの項目が上図の内容になるように設定し、ダイアログ内の「TCP/IP 設定」ボタンをクリックしてください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. このダイアログの IP アドレス以外の項目が上図の内容になるように設定してください。

注意: ここで設定する IP アドレスは、PN9108 と同一セグメントのネットワークにあり、かつ PN9108 など他のデバイスやコンピュータに使用されていないものを設定してください。

4. 「OK」ボタンをクリックして、このダイアログを終了し、次の画面でも「OK」ボタンをクリックしてください。
5. 「Out of Band Configuration」画面 (p.64 参照) で「Enable dial out」の項目からチェックを外してください。

以上でダイレクトダイヤルイン接続のセットアップは完了です。

ログイン

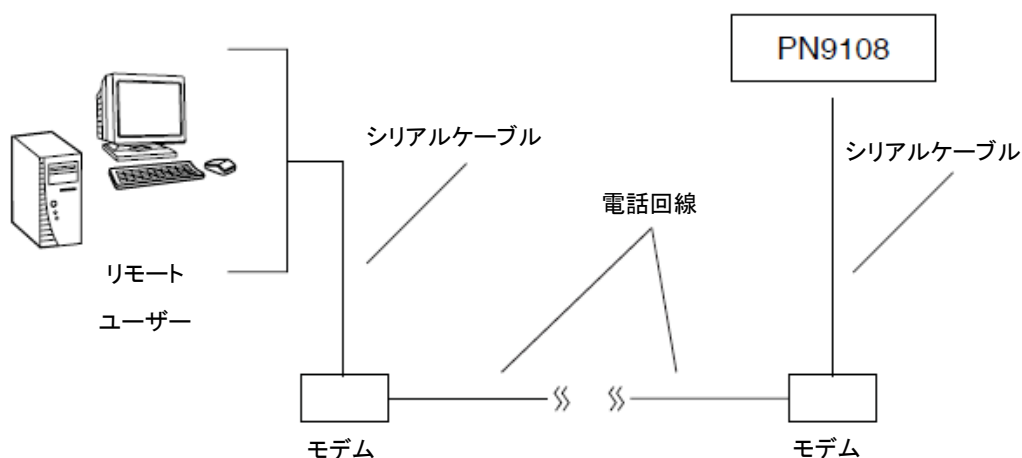
1. ダイヤルアップネットワークフォルダに入っている、先ほど作成したアイコンをダブルクリックしてください。
2. ユーザーネームとパスワードを入力し、「**接続**」をクリックしてください。
3. ネットワーク経由と同様の方法で、Web ブラウザや Telnet を使用して PN9108 にアクセスしてください。

非ダイレクトダイヤルイン接続 (PPP)

この方法では遠隔地からモデム接続を使用して電話をかけることでPN9108にアクセスします。

接続方法

1. 下図の構成になるように、お使いのハードウェア環境をセットアップしてください。



-
- 注意:**
1. モデムへの接続には標準9ピンシリアルモデムケーブルを使用してください。
 2. PN9108のRS-232ポートとPN9108が使用するモデムのシリアルポートを接続してください。
 3. モデムは呼び出しに対して自動応答するように設定されていなければなりません。
-

2. 「ダイレクトダイヤルイン接続 (PPP)」(p.75 参照) の手順 2~9 に従ってセットアップを行ってください。
3. 手順 8 では PN9108 が使用するモデムの電話番号を入力してください。
4. 「完了」ボタンをクリックしてください。

PN9108に接続するためのショートカットアイコンがダイヤルアップネットワークフォルダに作成されます。

最終確認

ここではダイレクトダイヤルイン接続と同様の手順で作業を行います。詳細は p.78 をご参照ください。

ログイン

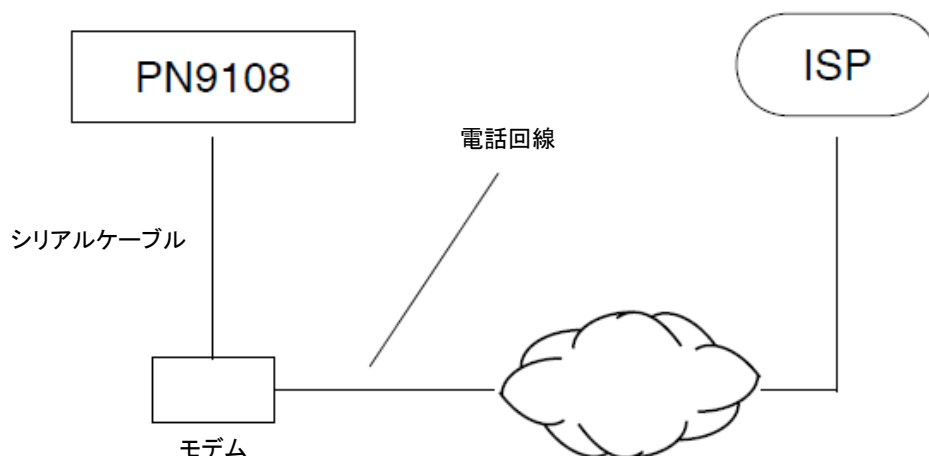
1. 「Out of Band Configuration」画面で、「Enable dial-out」の項目が無効(チェックがついていない)、また、PN9108 のボーレートが 115200 に設定されていることを確認してください。
2. ダイヤルアップネットワークフォルダに作成されたショートカットアイコンをクリックしてください。
3. ユーザーネーム、パスワードを入力し、「接続」ボタンを押してください。「接続」ボタンを押したら認証処理が完了するまでお待ちください。(この処理にはしばらく時間がかかります。)
4. ネットワーク経由と同様の方法で、Web ブラウザや Telnet を使用して PN9108 にアクセスしてください。

ダイヤルアウト接続

この内容に設定すると PN9108 が ISP に接続できるようになります。この場合、ユーザーは ISP が PN9108 に割り当てた動的 IP アドレスを使って、ブラウザでアクセスすることができます。

接続設定

1. 下図の構成になるように、お使いのハードウェア環境をセットアップしてください。



注意: モデムへの接続には標準 9 ピンシリアルモデムケーブルを使用してください。

2. 「Out of Band Configuration」画面 (p.64 参照) で以下を確認・設定してください。
 - a) 「Enable dial-out」の項目が有効になっている (チェックが入っている) ことを確認してください。
 - b) ISP への接続に必要な COM ポート、ISP、モデムに関する項目をお使いの環境に適した値に設定してください。

注意:

1. 「Modem Type」リストの項目にお使いのモデムの種類が該当しない場合は「Generic Modem」を選択してください。
2. 「Generic Modem」を選択した場合、お使いのモデムの初期化文字列を「Initialization String」の欄に入力してください。このとき、コマンドはセミコロン (;) で区切ってください。この初期化文字列を空白で設定すると、PN9108 は **atdt** コマンドを引数なしで実行します。

- c) 「Dial-out schedule」セクションの項目を入力することで、ISP アカウントを用いて PN9108 をインターネット上でオンラインにするダイヤルアウトスケジュールをセットアップすることができます。ダイヤルアウトスケジュールの詳細については p.65 をご参照ください。
- d) ISPによって割り当てられた PN9108 の IP アドレスをユーザーにメール通知する場合は、「Mail Configuration」セクションに必要事項を入力してください。

ログイン

ユーザーは、ISP から割り振られた PN9108 の IP アドレスを Web ブラウザのアドレスバーに入力することによって、ログインページにアクセスすることができます。

Telnet

ターミナルによるアクセス

1. お使いのコンピュータでターミナル(コマンドライン)セッションを開いてください。
2. プロンプトで、以下のコマンドを入力してください。

telnet *PN9108* の IP アドレス

注意: この IP アドレスは ISP によって割り当てられたものです。

3. [Enter]キーを押してください。
4. ログインプロンプトで、ユーザーネーム、パスワードを入力してください。

注意: ログインプロンプトが表示されない場合は、Telnet セッションのメニューからターミナルに関する設定画面を開き、「VT-100/ANSI」を選択してください。

デバイスへの Telnet セッションが確立すると、PN9108 のメイン画面が表示されます。

ブラウザによるアクセス

1. Web ブラウザの URL バーに以下のアドレスを入力してください。

telnet://*PN9108* の IP アドレス

注意: この IP アドレスは ISP によって割り当てられたものです。

2. [Enter]キーを押してください。
3. ログインプロンプトでユーザーネームとパスワードを入力してください。

第7章

ファームウェアアップグレード

ファームウェアアップグレードユーティリティを利用することで、お使いの PN9108 のファームウェアを簡単に自動アップグレードできます。最新のファームウェアは ATEN Web サイトで公開しておりますので、定期的にダウンロードサイトをご覧くださいようお願い致します。

<http://www.aten.com/download/download.php>

アップグレード作業をはじめる前に

1. 弊社 Web ダウンロードサイトにアクセスし、ファームウェアの型番リストから PN9108 を選択してください。
2. アップグレードしたいバージョンのパッケージを選択し、コンピュータにダウンロードしてください。(最新版のダウンロードを推奨します)

アップグレードの方法

以下の手順でファームウェアのアップグレードを行ってください。

1. アップグレードファイルをダウンロードしたコンピュータから PN9108 に Web ブラウザでログインします。
2. 画面上部にある「Firmware」アイコンをクリックしてください。以下のような画面が表示されます。



3. 「参照...」ボタンをクリックすると「ファイルの選択」ダイアログが表示されますので、ダウンロードしたファームウェアアップグレードファイルを保存したフォルダに移動し、そのファイルを選択してください。
4. 「Upload」ボタンをクリックしてアップグレードを実行してください。

注意:

1. PN9108 をデジタイチェーン接続してお使いの場合、ファームウェアのアップグレードは 2 台目から順に実行され、最後に 1 台目のアップグレードを行います。すべてのデバイスのアップグレードが完了すると、PN9108 は自動的に再起動します。
 2. 「Check Firmware Version」の項目にチェックを入れると、PN9108 は現在使用しているファームウェアのバージョンと、新しく適用しようとしているファームウェアのバージョンの比較を行います。このとき、PN9108 で現在使用されているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、アップグレードを行いません。
 3. 「Check Firmware Version」の項目にチェックが入っていないと、ファームウェアのバージョンの比較を行わず、指定されたファイルでアップグレードを行います。
-

付録

IP アドレスの設定

アドミニストレーターとして最初に PN9108 にログインする場合、ユーザーが IP アドレスを指定してアクセスできるように PN9108 に IP アドレスを設定する必要があります。

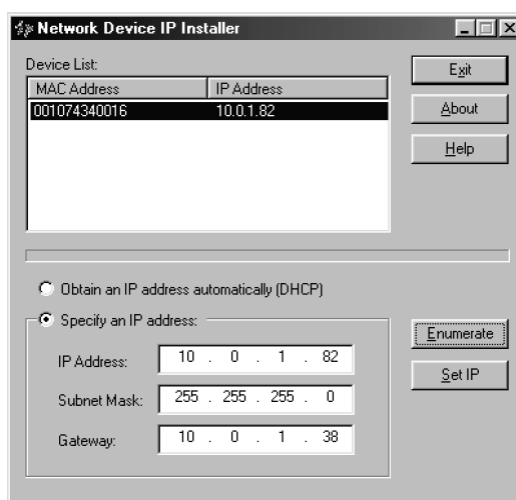
- ◆ お使いのコンピュータが PN9108 と同一のネットワークセグメントにある場合は、Web ブラウザで PN9108 のデフォルト IP アドレス (192.168.0.60) にアクセスすることによって接続することができます。
- ◆ お使いのコンピュータが PN9108 と同一のネットワークセグメントにない場合は、PN9108 に固定 IP アドレスを設定する手段として 3 つの方法があります。

PN9108 に接続し、ログインすると、「Network Settings」の画面 (p.39 参照) で PN9108 に固定 IP アドレスを設定することができます。

方法 1

Windows が搭載されているコンピュータの場合、製品同梱 CD に収録されている IP Installer を使用して IP アドレスを割り当てることができます。

1. 製品同梱の CD に収録されている IPInstaller のフォルダを開き、IPInstaller.exe を実行してください。以下のようなダイアログが表示されます。



2. 「Device List」で IP アドレスの設定対象となるデバイスを選択してください。
 - ◆ リストに何も表示されていない、また、目的のデバイスがリストに表示されていない場合は、「Enumerate」ボタンをクリックして「Device List」を再表示してください。
 - ◆ リストに同一型番のデバイスが複数表示された場合、MAC アドレスで対象となるデバイスを判別してください。デバイスの MAC アドレスは製品下面に貼り付けられているラベルに記載されておりますので、そちらをご確認ください。
3. 動的 IP アドレスを割り当てる場合は「Obtain an IP address automatically」を、固定 IP アドレスを設定する場合は「Specify IP address」を選択してください。後者を選択した場合は、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを該当箇所に入力してください。
4. 「Set IP」ボタンをクリックしてください。
5. 「Device List」で IP アドレスが表示されたら「Exit」ボタンをクリックして IP Installer を終了してください。

方法 2

1. お使いのコンピュータの IP アドレスを 192.168.0.XXX に設定してください。
XXX の部分には 60 以外の任意の値を使用してください。(192.168.0.60 は PN9108 のデフォルト IP アドレスです。)
2. PN9108 のデフォルト IP アドレス (192.168.0.60) を Web ブラウザの URL バーに入力し、PN9108 にアクセスしてください。
3. PN9108 がセットアップされているネットワーク環境で有効な IP アドレスを Web メニューから設定してください。
4. 手順 1 でお使いのコンピュータの IP アドレスを変更した場合は、PN9108 からログアウトした後で元の IP アドレスに戻してください。

方法 3

固定 IP アドレスは ARP コマンドを使って割り当てることもできます。手順は以下のとおりです。

1. PN9108 の電源を切ってください。
2. 以下のコマンドを実行してください。

```
arp -s <IP アドレス> <PN9108 の MAC アドレス>
```

IP アドレスは PN9108 がセットアップされているネットワークセグメントで有効なものを使用してください。

注意: デバイスの MAC アドレスは製品下面に貼り付けられているラベルに記載されておりますので、そちらをご確認ください。

3. PN9108 に電源を入れなおしてください。
4. 手順 2 で設定した IP アドレスに Web ブラウザからアクセスし、正しいユーザーネームとパスワードを入力して PN9108 にログインしてください。

注意: arp コマンドを実行してから 30 分以内にログインする必要がありますので、コマンド実行後すぐに次の手順を開始できるように Web ブラウザをあらかじめ起動しておく等の準備を事前にされることを推奨します。

5. ログインに成功したら、「Network Settings」画面を開いてネットワークの情報を入力してください。(p.39 参照)

トラブルシューティング

問題 1

セーフシャットダウン/リブート操作を実行すると、コンピュータがリブートする過程で自動ログイン機能が動作せず、コンピュータのログオン画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められる。

解決方法

コンピュータに以下の手順で自動ログオンの設定を行ってください。

1. お使いのコンピュータの OS が Windows NT の場合は regedit.exe を、Windows 2000 または XP の場合は regedt32 を実行してください。
2. レジストリエディタで以下の項目を選択してください。
HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows NT¥CurrentVersion¥Winlogon
3. レジストリエディタのメニューバーから、[編集]—[新規]—[文字列値]を選択します。
4. 下表の変数と値を追加してください。

名前	値
DefaultDomainName	(このコンピュータのドメイン名)
DefaultUserName	(このコンピュータのユーザー名)
DefaultPassword	(このコンピュータのユーザーパスワード)
AutoAdminLogon	1

注意: 実際に設定する場合は、上の表内に記載されているカッコは除いて、入力する文字列をそのまま設定してください。

5. レジストリエディタを終了してください。

注意: ログインパスワードは空白でなく、実際に文字列として設定されていることを確認してください。

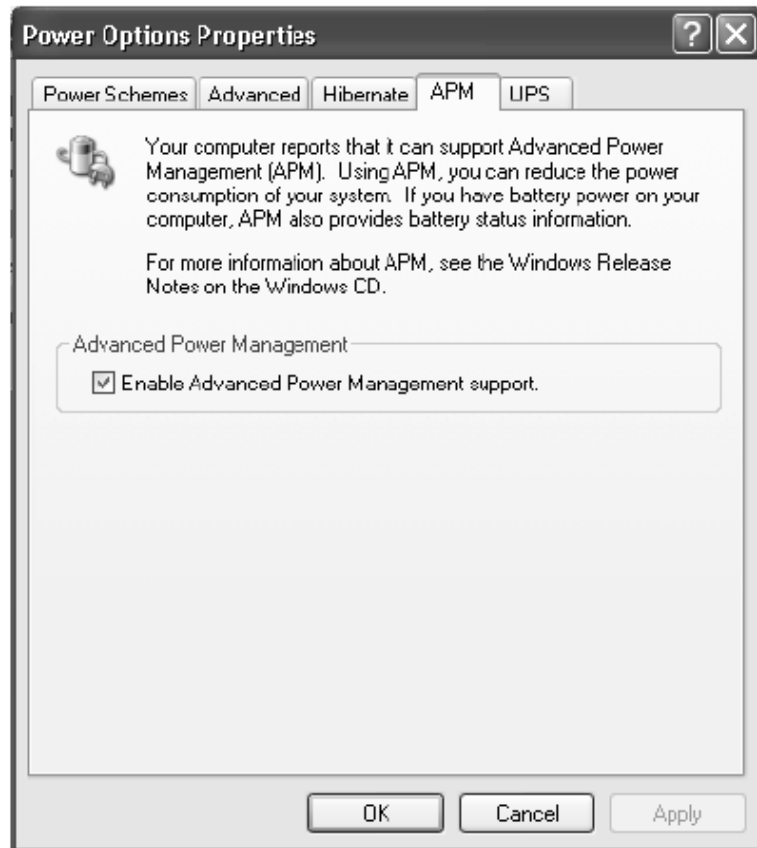
問題 2

BIOS の APM をサポートしていない旧式のマザーボードがコンピュータに搭載されている場合、どのようにセーフシャットダウン/リブートを行えばよいのか？

解決方法

Windows 2000、XP または Windows Server 2003 が搭載されているコンピュータをお使いの場合は以下の設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]—[電源オプション]メニューを開いてください。
2. 「電源オプションプロパティ」の「APM」タブを開いてください。
3. 「アドバンスドパワーマネジメントを開始する」の項目にチェックを入れてください。



問題 3

「Date/Time」メニューで「Synchronize with NTP server」を選択したにもかかわらず、インターネット上の NTP サーバーから日付および時刻が取得できない。

解決方法

お使いの環境におけるシステム担当者の方にお問い合わせいただき、NTP サーバーとの通信に使用するポートを開放してください。

問題 4

コンピュータがセーフシャットダウンを行うように設定したにもかかわらず、一部のコンピュータでセーフシャットダウンがうまくいかない。

解決方法

この現象は、編集中のドキュメントの保存方法を選択するダイアログ等、ユーザーからの応答を待っているダイアログボックスが表示されたままになっていることに起因します。これらのダイアログに応答しない限り、シャットダウンは完了しません。

シャットダウンの方法を、「Kill the Power」(セーフシャットダウンのオプションではありません)に変更したり、Over IP 製品を使ってリモートアクセスし、これらのダイアログを操作したりすることで解決できます。

問題 5

ログインすると、ブラウザで「ルート認証局が発行した電子証明書は信頼できません」というメッセージや認証エラーが返ってくる。

解決方法

Microsoft の信頼された認証局のリストに認証名が登録されていませんが、この証明書は信頼できるものです。詳細については p.94 の「信頼された証明書」をご覧ください。

問題 6

「Modem Ring Resume」を有効にしたにもかかわらず、コンピュータが再起動しない。

解決方法

1. コンピュータの BIOS 設定で「Modem Ring Resume」が有効になっていることを確認してください。
2. コンピュータの BIOS 設定で「Modem Ring Resume」が有効になっている場合、お使いのメインボードのマニュアルをご覧になり、外部モデムウェークアップに対応していることを確認してください。詳細は p.55 の「BIOS における電源管理設定」をご参照ください。
3. 「Modem Ring Resume」は、正常パワーダウン後における再起動に対応しております。コンピュータを強制終了した、または電源障害など正常でない方法によってシャットダウンした場合は、「Modem Ring Resume」を再度有効にするためにコンピュータを再起動しなければなりません。これを回避するには、「System after AC Back」を有効にしてください。(p.46「System after AC Back」参照)
お使いのコンピュータの BIOS で「Modem Ring Resume」と「System after AC Back」の両方に対応している場合は、この両方を有効にされることを推奨します。

問題 7

PN9108 で電源出力ポートの「System after AC Back」を有効にしたが動作しない。

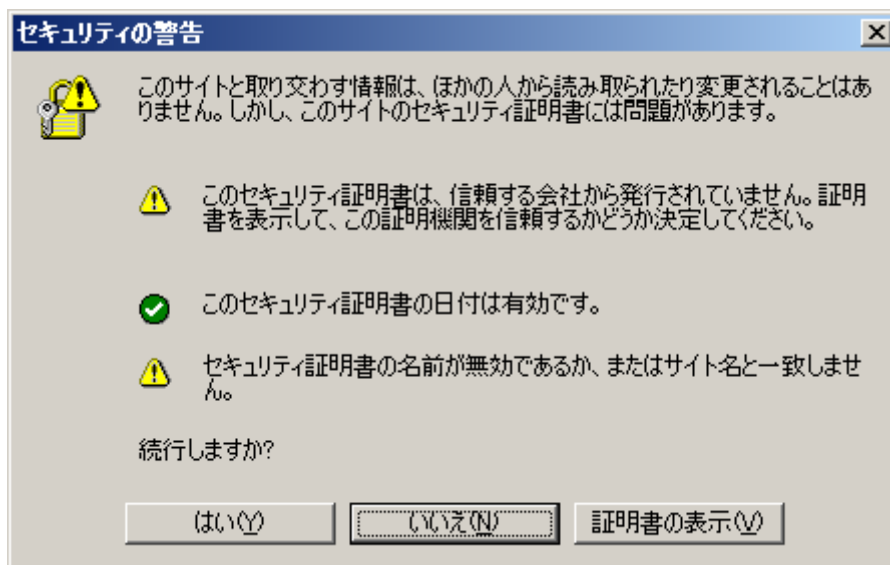
解決方法

そのポートに割り当てられているコンピュータの BIOS で、「System after AC Back」が **ON** になっていることを確認してください。（「System after AC Back」の設定内容には、「Last State」「Pre-State」ではなく、「ON」「Always On」等を選択してください。）

信頼された証明書

概要

Web ブラウザ経由で PN9108 にログインした際に、以下のようなセキュリティ警告ダイアログで、デバイスの証明書が信頼できるものではないため、操作を続行するかどうかを問うメッセージが表示されます。



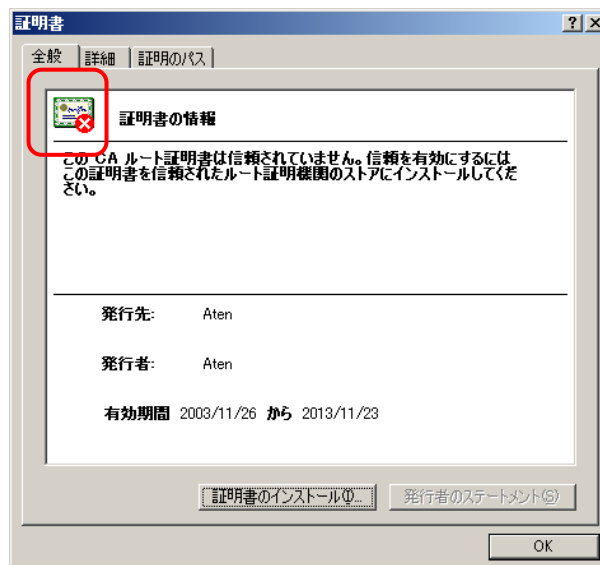
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピュータから作業している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピュータから作業している場合は、証明書をお使いのコンピュータにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

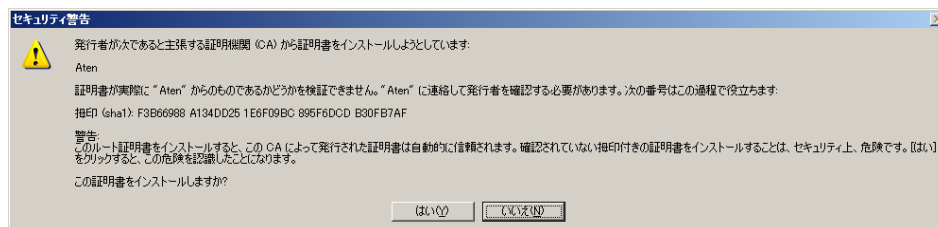
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「×」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

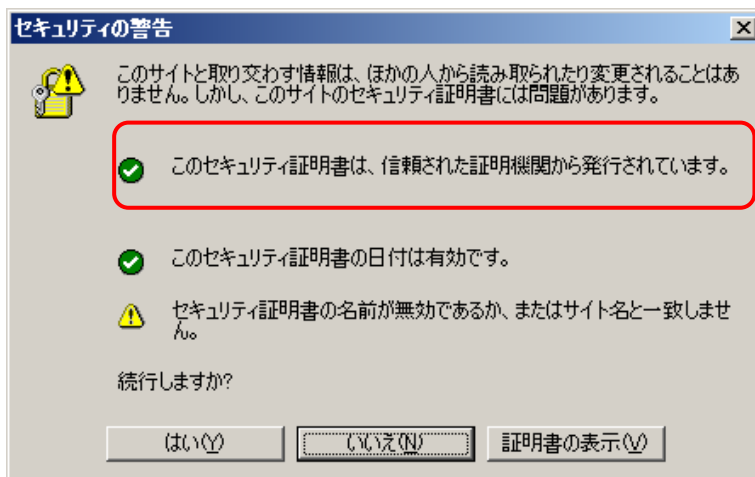
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。
4. 以下のような警告ダイアログが表示されたら、「はい」ボタンを押してください。



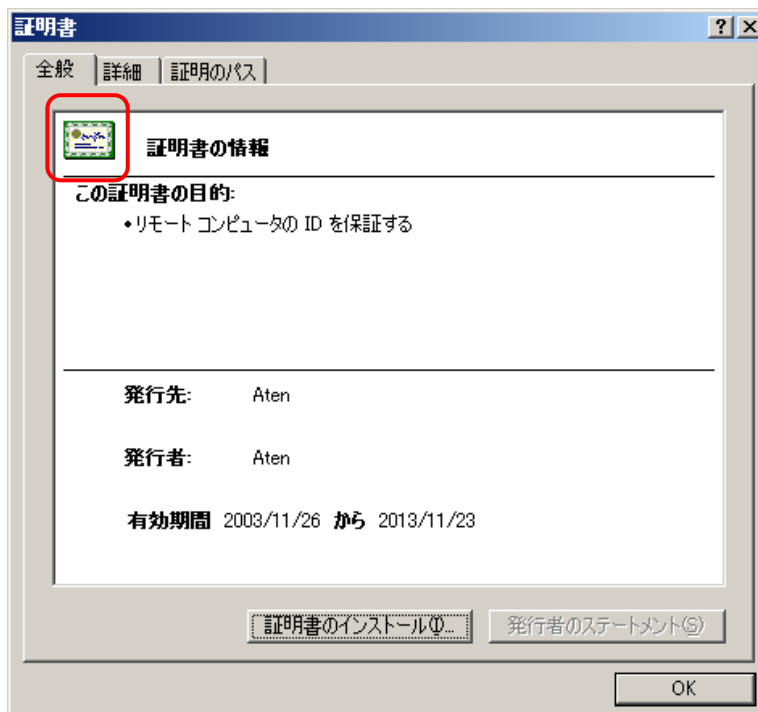
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。「OK」ボタンを押すとダイアログが閉じられます。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



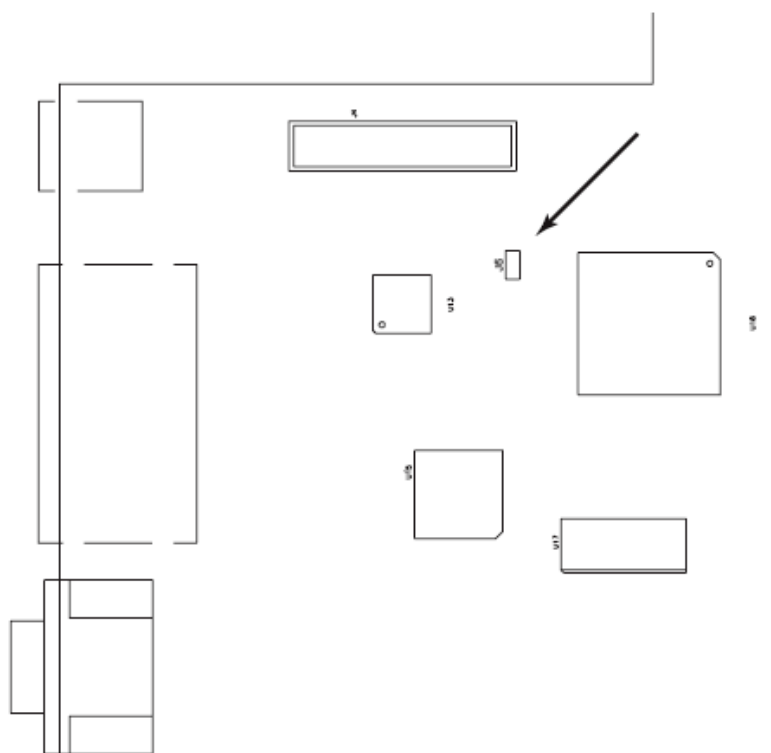
「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



アドミニストレーターでログインできない場合

ユーザー名やパスワードを忘れた等の理由でアドミニストレーターとしてログインできない場合、以下の手順でログイン情報を消去してください。

1. PN9108 の電源を切り、カバーをはずしてください。
2. J6 と書かれているジャンパをショートさせてください。



3. PN9108 に電源を入れてください。
4. Link および 10/100Mbps の各 LED が点滅したら、PN9108 の電源を切ってください。
5. J6 に取り付けられているジャンパキャップを取り外してください。
6. ケースを製品本体に取り付け、PN9108 に電源を入れなおします。
電源を入れなおすと、デフォルトのユーザー名とパスワード(p.31 参照)でログインできるようになります。

製品仕様

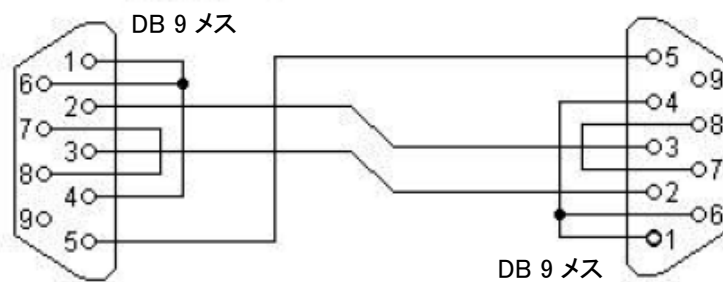
機能		PN9108
電源入力		IEC60320/C14 オス×1
電源出力	インターフェース	IEC60320/C13 メス×8
	ダイレクト接続	8
	最大 (デイジーチェーン)	128
入力定格電力(総入力)		100V,50/60Hz,11A
出力定格電力		100V,50/60Hz,10A
スイッチ	電源	ロックスイッチ×1
	リセット	ピンホール型スイッチ×1
	電源オン/オフ	プッシュボタン×8
	リモートオン/オフ	
	ステーション ID/ 供給電流選択	プッシュボタン×1
	ブレーカー	プッシュボタン×1
	ファームウェア アップグレード	-
デイジーチェーンポ ート	PON IN	DB9 ピンメス×1
	PON OUT	DB9 ピンオス×1
LAN ポート		RJ-45×1
RS-232 ポート		DB9 ピンオス×1
セーフシャットダウンポート		RJ-11×8
LED	電源	オレンジ×8
	リモートアクセス	グリーン×8
	リンク	グリーン×1
	10/100Mbps	オレンジ/グリーン×1
	電源	ブルー×1
	過電流	レッド×1
	ステーション ID/ 供給電流	7 セグメントデジタル表示 オレンジ×2

(表は次のページに続きます)

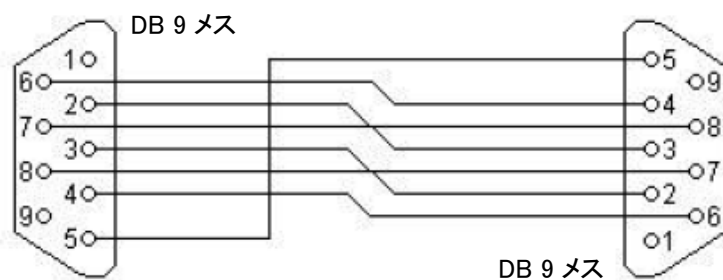
機能		PN9108
消費電力	外部出力なし	100V,16W
	最大出力時	100V,1440W
動作環境	動作温度	0~40℃
	保管温度	-20℃~60℃
	湿度	0~80%RH 結露なきこと
ケース材料		メタル
重量		4.2kg
サイズ(W×D×H)		437×254×44mm
同梱品	電源ケーブル×1 デイジーチェーンケーブル×1 セーフシャットダウンケーブル×8 IEC60320NEMA 変換ケーブル×8 ラックマウントキット×1 ユーザーマニュアル×1 クイックスタートガイド×1 ソフトウェア CD×1 フットパッド(4pcs)×1	
デイジーチェーン対応製品	PN9108 PN0108	

ヌルモデムケーブルのピン配置

ヌルモデムケーブル(ループバックハンドシェイク接続)



ヌルモデムケーブル(フルハンドシェイク接続)



バッテリーに関する注意事項

本装置には交換式のリチウムバッテリーが内蔵されていますが、この電池には絶対に触れないでください。保証の対象外となるだけでなく、製品自身やその他の機器へ重篤な損害を与える可能性があります。